

H28年度文部科学省委託

特別支援教育に関する実践研究充実事業（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）

# ライフキャリアの視点を大切した教育課程の編成 ～地域資源を活用した授業づくりを通して～ (二年次)

平成28年度 研究紀要 第37集



秋田県立横手支援学校

# 目次

はじめに 校長 佐々木明美

## 研究概要

- |              |   |
|--------------|---|
| I 研究概要       | 1 |
| II 研究計画と評価計画 | 4 |

## 研究の実際

- |                                  |    |
|----------------------------------|----|
| I ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成（計画）    | 7  |
| II ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の実施と授業づくり | 8  |
| III ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の評価・改善   | 11 |
| IV 小学部の実践                        | 13 |
| V 中学部の実践                         | 19 |
| VI 高等部の実践                        | 24 |

## 成果と課題

- |           |    |
|-----------|----|
| I 成果と課題   | 30 |
| II 研究のまとめ | 31 |

## 資料

- ・平成28年度キャリア教育全体計画
- ・授業づくりの基礎・基本「横手のスタンダード」
- ・授業づくり振り返りシート
- ・平成29年度教育課程（案）

あとがき 教頭 板井 互

研究同人

## は じ め に

本校は、平成27・28年度の2か年に渡り、文部科学省委託「特別支援教育に関する実践研究充実事業」の研究指定をいただき、「ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成～地域資源を活用した授業づくりを通して～」を研究主題に掲げて、全職員が一丸となって研究に取り組んで参りました。平成28年11月には、公開研究会を開催し、県内特別支援学校、地域の小・中・高等学校の教職員の方々に多数御参会いただき、手応えのある最終報告会を行うことができました。2か年に渡り、本校の研究推進に対しまして、御示唆、御提言を賜りました皆々様に深く感謝申し上げます。

本校は、平成31年度に、開校40周年を迎えます。県南地区に、いち早く創立された養護学校（特別支援学校）として、地域の方々の御理解、御支援をいただきながら教育活動を推進してきました。その間、高等部の設置等により児童生徒数も増加を続け、開校当時は、近隣の施設から通学してくる児童生徒が多かったのですが、現在は、自宅からの通学生が大半を占めております。時代と共に、社会や地域における特別支援教育に対する理解が着実に進み、多くの方々から広く御協力や応援をいただけるようになりました。また、児童生徒の実態も、障害の理解の広がりと共に多様化が進み、本校も発達障害を有する児童生徒や肢体不自由を有する児童生徒等が在籍する、障害種枠を広くとらえた「地域の特別支援学校」としての役割も担ってきています。これまでも一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進してきましたが、様々なニーズに応えられる学校として、一人一人の教育の保障を目指し、自立と社会参加に直結した教育を提供できる学校としてがんばっていきたくと考えております。

その使命からも、校名が「横手支援学校」に変わり、また、幼児児童生徒の資質・能力のさらなる高みを目指す次期学習指導要領の改訂を迎えるこのタイミングで、秋田県教育委員会より、文部科学省委託による「特別支援教育に関する教育課程の編成等の実践研究」の研究指定をいただいたことは、本当に有り難いことでした。この2か年、特別支援教育におけるキャリア教育をあり方を模索しつつ、ライフキャリアを「生涯にわたり、地域で役割を果たしながら、自分らしく生き、自己実現を果たそうとする生き方」と定義づけて、キャリア教育の全体計画に各学部段階での指導の重点を明記し、その具現化を目指した授業づくりに取り組みました。

2年次には、「質の高い授業づくり」と「ライフキャリアの視点による教育課程の編成」という両輪に拍車をかけ、さらにスピードを上げて研究を推し進めることができました。

次年度は、研究の成果を形にして、新教科も配置し新教育課程でスタートする予定です。

本研究を進めるに当たり、その方向付けや計画立案、具体的な授業づくりに関する助言など、様々な機会に御指導賜りました秋田県教育庁特別支援教育課指導主事の先生方をはじめ、「県南特別支援学校教育課程等協議会」で何度となく本校に足を運んで御助言下さった諸先生方、公開研究会や授業研究会、研修会に御参会いただいた多くの先生方に深く感謝申し上げます。

今後とも変わらぬ御指導を賜りますよう、よろしく願いいたします。

校 長 佐々木 明美

---

# 研究概要

---

# I 研究の概要

## 1 研究主題

ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成  
～地域資源を活用した授業づくりを通して～（二年次）

## 2 研究主題の設定理由

横手支援学校（以下、本校）は現在小学部22名、中学部22名、高等部49名の計93名の児童生徒が在籍し、その大半が横手市内から通学しており、医療的ケアを要したり、肢体不自由を併せ有したり、障害の特性や過去の経験等から社会性や主体性、自己肯定感が極端に低い状況もみられたりするなど、障害等の重度・重複化、多様化がみられる。このような実態を踏まえると、一人一人のキャリア発達に向け、本人主体の指導・支援を積み重ねていく必要がある。

過年度研究の成果や卒業後支援の実施状況から、一人一人のキャリア発達を一連の流れとして捉えた学部間の系統性のある指導内容を設定するとともに、職業的自立より広義な社会的自立の視点での教育実践の必要性が挙げられた。児童生徒の実態からも地域の中で生活するための基礎的・基本的な学習内容の定着とともに、自分の役割を果たしながらよりよく生きようとする意欲や態度を喚起していくことが大切であると考え。そこで、平成27年度の研究では、ライフキャリア\*1を「生涯にわたり、地域で役割を果たしながら自分らしく生き、自己実現を果たそうとする生き方」と定義し、その視点として「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」と定めた。授業づくりにおいては、キャリア教育全体計画（資料1）に各学部段階での重点事項を明記し、その具現化を目指した取組を行った。この継続的な取組が社会的自立に向けた系統性のある指導の実現につながると考える。

また、本校の教育活動の中には、地域の人材や施設の活用や地域の祭りへの参加など、地域に根付いた活動が多くある。地域資源を活用した学習活動は、生活に結び付いた具体的・実際の活動であり、児童生徒の社会的自立に向け、多様な活動が設定できる。キャリア教育全体計画に示した各学部段階での重点事項を踏まえた授業づくりでは、地域資源を効果的に活用することで、各学部段階に応じた系統性のある指導目標や指導内容の設定、目標達成に向けた多様な指導方法が可能になると考える。加えて、平成27年度の研究で得られた成果からも地域資源を活用した授業を通して、自分の果たすべき役割に気付いたり、地域の人材との関わりの中で、自分らしさを発揮し、目標に向かって活動したりするなど、ライフキャリアの視点に関わる児童生徒の変容が期待できる。

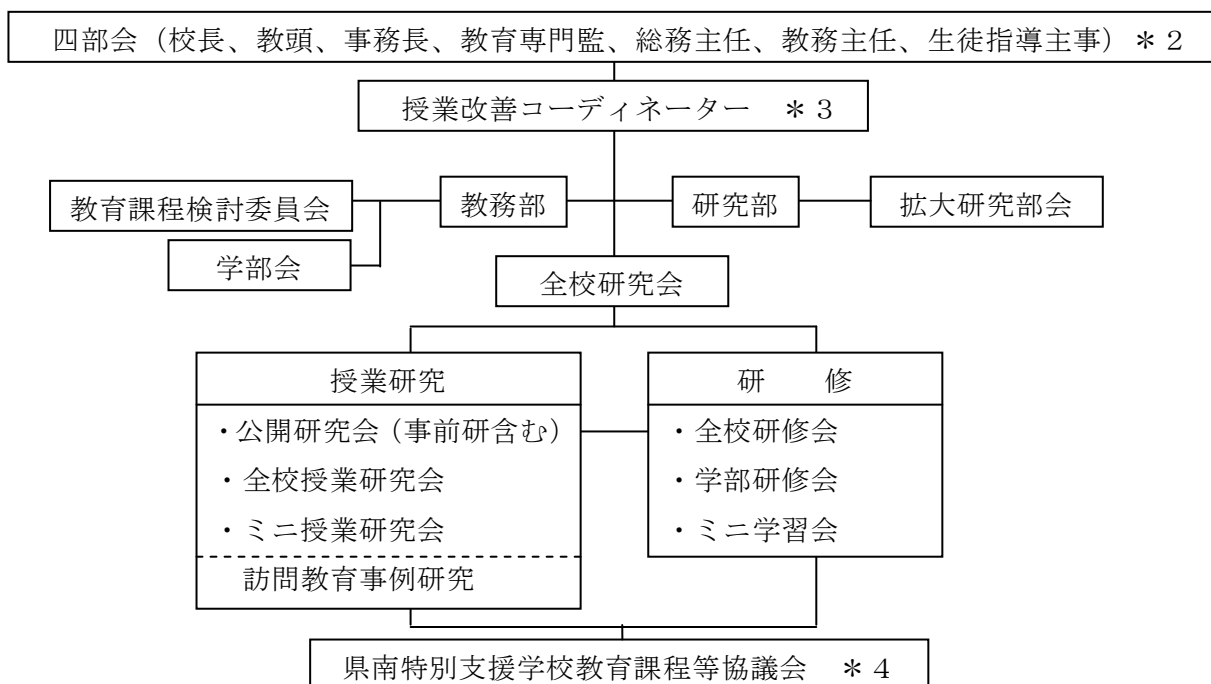
上記の事柄を踏まえ、障害の重度・重複化、多様化する現状に対応した教育活動を展開するために、ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成の下、キャリア教育全体計画に示した各学部段階での重点事項を踏まえて、系統性のある指導目標、指導内容を設定し、授業実践の中でその妥当性を評価する。その評価の積み重ねを整理し、教育課程を評価・改善する過程を繰り返し行いながら、児童生徒の社会的自立に結び付く教育課程を編成していくことが必要と考え、本主題を設定した。

\*1 本校のキャリア教育は、事業所等での働く力の習得に偏ることなく、職業生活を支える家庭生活や地域生活の充実を図る社会的自立を目指して行う意味からライフキャリアと用いている。

## 3 研究仮説

ライフキャリアの視点を大切にした教育課程を編成し、それに基づき、地域資源を活用しながら児童生徒が自分の役割に気付き、自分らしさを発揮し、自分のなりたい姿に向かって活動するための授業実践を重ねる。このことで、児童生徒の社会的自立につながる力が育っていくだろう。

#### 4 研究組織



- \* 2 校長、教頭、教育専門監、各学部主事等で構成し、教育計画等を協議する会（週 1 回開催）。
- \* 3 各学習グループの指導計画作成の段階から関わり授業づくり（計画、実施、評価、改善）に関するアドバイスや指導助言を行う。以下、授業改善C0と記載する。
- \* 4 大曲支援学校（教育専門監、教務主任、研究主任）、せんぼく校（教務主任、研究主任）、稲川支援学校（教務主任、研究主任）、本校（教育専門監、授業改善C0、総括教務主任、教務主任、研究主任）で構成し、研究推進の連携を協議する会。これを基に授業研究会等の相互参加の調整を行う。

#### 5 研究内容・方法

(1) ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成（計画）

	実施事項及び内容	実施担当等：時期
①	<b>教育課程の確認</b> ・学校教育目標や学部経営目標、指導の重点、指導の形態ごとの目標等を確認する。 ・教育課程編成等に係る日程や組織の役割を提示し、共有する。	職員会議、学部会、全校研究会：4月 学部研究会：5月 教育課程説明会：4月
②	<b>児童生徒の「育てたい力」の検討及び共通理解</b> ・個別の指導計画を基に、児童生徒一人一人についての「育てたい力」を検討し、共通理解を図る。 ・キャリア教育全体計画（資料1参照）を基に、キャリア教育の趣旨と重点事項を共有する。	学部研究会：5月 研修日：6月、8月
③	<b>年間指導計画の作成</b> ・研究対象となる単元とその他の単元や指導の形態との系統性や関連性が見える年間指導計画を作成する。	研修日：4、5月 評価・改善：単元終了後等

(2) ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の実施と授業づくり

	実施事項及び内容
①	授業計画 ・授業改善C0を交え、本校の授業づくりのための冊子「授業づくりの基礎・基本～横手のスタンダード～」(資料2参照 以下、「横手のスタンダード」と記載する。)を基にしながら、指導目標、指導内容等に着目し単元構想をする。 ・指導目標達成とよりよい授業づくりに向け、地域資源の活用を吟味する。
②	授業実践 ・一人一人の学びを積み上げ、振り返るためにキャリアノートを活用する。
③	授業評価 ・授業者が、「授業づくり振り返りシート」(資料3参照)により児童生徒の変容と指導目標等について自己評価を行う。 ・授業改善C0の助言や授業研究会等での協議による他者評価を行う。
④	授業改善(授業計画の改善) ・授業実践の評価を基にして学習計画等の改善を行う。

(3) ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の評価・改善

	実施事項及び内容	実施担当等：時期
①	年間指導計画の評価・改善 ・授業づくりを通して得られた評価や各学部の指導の重点を基に、指導目標や指導内容、学習活動等の評価を定期的に行い、検討・改善を図る。	学部研究会等： 8月、12月
②	キャリア教育全体計画の評価・改善 ・学習グループや各学部の授業づくりで得られた評価を整理し、授業づくりと各学部の指導の重点や学部経営目標との整合性を評価し、検討・改善を図る。	学協会：7月、12月 教育課程検討委員会： 7月、12月、2月
③	教育課程の評価・改善 ・学習グループや各学部の授業づくりで得られた評価を整理し、教育課程の実施内容がライフキャリアの視点と合致するものかを評価し、教育課程の基本方針や指導計画等の改善を図る。	学協会：7月、12月 教育課程検討委員会： 4月、7月、12月、2月

(4) ライフキャリアの視点を大切にした教育課程を編成するための研修会(1回30分間)

	実施事項及び内容	実施担当等：時期
①	年間指導計画 ・年間指導計画作成の要点(手順、記載事項)の確認と作成に関して授業者間での話し合いを行う。	研究部：4月、5月
②	教育課程と授業づくり ・教育課程の編成と授業づくりの関連性について講話を基に共通理解を図る。	研究部、授業改善C0： 5月
③	授業づくりのポイント ・「横手のスタンダード」を基に、今年度の授業づくりのポイントを確認する。	研究部、授業改善C0： 6月
④	肢体不自由児に対する授業づくりのポイント ・「姿勢」に関わる配慮点を中心に演習を通して、授業づくりのポイントを確認する。	研究部、専門性の高い教員： 6月
⑤	キャリア教育 ・H28年度キャリア教育全体計画の重点事項の改善点を中心に確認する。	研究部、教務部：8月

## Ⅱ 研究計画と評価計画

### 1 研究計画（一年次）

時期	主な研究会・会議等	主な実施内容
4月	・拡大研究部会①	・研究の方向性検討
	・教育課程検討委員会①	・教育課程の確認
	・全校研究会①	・研究概要の確認
	・全校研究会②	・研究推進の共通理解
5月	・県南3校特別支援学校教育課程等協議会①	・研究推進に関する意見交換
6月	・ミニ授業研究会～12月	・各学習グループの授業研究
7月	・全校授業研究会①	・授業研究と学部研究推進状況の報告
	・拡大研究部会②	・公開研究会に向けた協議
	・教育課程検討委員会②	・1学期の評価及び改善案検討
	・研修会①	・日本理化学工業株式会社会長の講演
8月	・県南3校特別支援学校教育課程等協議会②	・1学期の評価及び改善案に関する意見交換
	・全校研究会③	・公開研究会概要確認
9月	・公開研究会事前研究会	・公開研究会に向けた授業研究
10月	・公開研究会	・授業提示、教育課程に関する協議
12月	・全校授業研究会②、③	・授業研究と学部研究推進状況の報告研究の成果と課題に関する協議
	・教育課程検討委員会③	・2学期の評価及び改善案検討
1月	・研修会②	・各教科等を合わせた指導に関する講演
	・県南3校特別支援学校教育課程等協議会③	・2学期の評価及び改善案及び次年度の教育課程に関する意見交換
2月	・教育研究発表会	・総合教育センターでの情報発信
	・全校研究会④	・研究1年次の成果・課題の確認
3月	・全校研究会⑤	・研究2年次の方向性の確認
	・研修報告会	・先進校視察等の情報共有

### 2 研究計画（二年次）

時期	主な研究会・会議等	主な実施内容
4月	・拡大研究部会①	・研究の方向性検討新
	・教育課程検討委員会①	・教育課程の確認
	・全校研究会①	・研究概要の確認
6月	・県南特別支援学校教育課程等協議会①	・教育課程と研究推進に関する意見交換
	・ミニ授業研究会～7月	・各学習グループの授業研究
7月	・拡大研究部会②	・公開研究会に向けた協議
	・教育課程検討委員会②	・1学期の教育課程の評価と改善案検討
8月	・全校研究会②	・研究の進捗状況と公開研究会概要確認
	・研修報告会①	・先進校視察等の情報共有
9月	・全校授業研究会①	・高等部授業提示と授業研究
	・県南特別支援学校教育課程等協議会②	・1学期の評価及び改善案に関する意見



		交換
10月	・全校授業研究会②、③	・小学部、中学部授業提示と授業研究
11月	・公開研究会事前研究会	・公開研究会に向けた授業研究
	・公開研究会	・授業提示、教育課程に関する協議
12月	・拡大研究部会③	・研究のまとめの方向性確認
	・全校研究会③	・公開研究会、研究のまとめの確認
	・教育課程検討委員会③	・2学期の教育課程の評価と改善案検討
1月	・県南特別支援学校教育課程等協議会③	・2学期の評価及び改善案及び次年度の教育課程に関する意見交換
	・拡大研究部会④	・次年度研究推進の検討と総合教育センターでの情報発信内容の確認
2月	・教育研究発表会	・総合教育センターでの情報発信
	・全校研究会④	・2年次のまとめの共通理解
	・教育課程検討委員会④	・次年度の教育課程の検討
3月	・研修報告会②	・先進校視察等の情報共有
	・全校研究会⑤	・次年度研究推進の方向性協議

### 3 評価計画（一年次）

時期	主な研究会・会議等（実施内容）
5月	・県南3校特別支援学校教育課程等協議会①（教育課程、研究の評価依頼）
6月	・学校評議員会①（事業説明と評価依頼）
7月	・全校授業研究会①（授業づくり及び教育課程に関する評価）
	・学部会（1学期の教育課程実施に関する評価）
8月	・個別面談（保護者からの授業及び児童生徒の変容に対する評価の聞き取り）
	・教育課程検討委員会②（1学期の教育課程実施に関する評価と改善点の検討）
	・県南3校特別支援学校教育課程等協議会②（教育課程検討委員会②の内容を踏まえた意見交換）
9月	・公開研究会事前研究会（授業づくりの評価）
10月	・公開研究会（教育課程の編成及び授業づくり、研究の評価）
12月	・全校授業研究会②、③（授業づくり及び研究に関する評価）
	・学部会（2学期の教育課程実施に関する評価）
1月	・個別面談（保護者からの授業及び児童生徒の変容に対する評価の聞き取り）
	・教育課程検討委員会③（2学期の教育課程実施に関する評価と改善点、次年度教育課程の検討）
	・県南3校特別支援学校教育課程等協議会③（教育課程検討委員会③の内容を踏まえた意見交換）
3月	・学部会（3学期の教育課程実施に関する評価）
	・学校評議員会②（研究推進への評価）
定期	・全職員による授業づくり振り返りシート（単元の評価と次単元への改善の方向性の検討）
	・全職員による研究推進アンケート（研究の推進状況や成果、課題に関する意見収集）

#### 4 評価計画（二年次）

時期	主な研究会・会議等（実施内容）
4月	・教育課程検討委員会①（前年度教育課程評価の確認）
6月	・学校評議員会①（教育課程、研究の評価依頼）
	・県南特別支援学校教育課程等協議会①（研究の経過説明と評価依頼）
	・ミニ授業研（授業づくりの評価）
7月	・学部会（1学期の教育課程実施に関する評価）
	・教育課程検討委員会②（1学期の教育課程実施に関する評価と2学期の改善点検討）
8月	・個別面談（保護者からの授業及び児童生徒の変容に対する評価の聞き取り）
	・県南特別支援学校教育課程等協議会②（教育課程検討委員会②の内容を踏まえた意見交換）
9月	・全校授業研究会①（授業づくりの評価）
10月	・全校授業研究会②、③（授業づくりの評価）
11月	・公開研究会事前研究会（公開研究会に向けた授業づくりの評価）
	・公開研究会（教育課程の編成及び授業づくり、研究の評価）
12月	・学部会（2学期の教育課程実施に関する評価）
	・教育課程検討委員会③（2学期の教育課程実施に関する評価と3学期の改善点の検討）
1月	・個別面談（保護者からの授業及び児童生徒の変容に対する評価の聞き取り）
	・県南特別支援学校教育課程等協議会③（教育課程検討委員会③の内容を踏まえた意見交換）
	・保護者アンケート（保護者からの教育課程や授業づくりに対する評価）
2月	・教育課程検討委員会④（次年度教育課程の検討）
	・学校評議員会②（研究推進への評価）
3月	・学部会（3学期の教育課程実施に関する評価）
定期	・全職員による授業づくり振り返りシート（単元の評価と次單元への改善の方向性の検討）
	・全職員による研究推進アンケート（研究の推進状況や成果、課題に関する意見収集）



横手支援学校「どんぐり山」からの眺め

---

# 研究の実際

---

## I ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成（計画）

### 1 教育課程の確認

#### (1) 学校教育目標や指導の重点等の確認

職員会議や学部会、全校及び学部研究会（4、5月）を通して、学校教育目標、学部経営目標と、その指導の重点、指導の形態ごとの目標等を学部職員及び全校職員で共有した。また、教育課程説明会（4月）において教育課程編成の手順や日程等を確認した。

昨年度の研究の成果・課題を基に、研究対象（小学部・中学部：生活単元学習、高等部：職業科）に関して各学部の教育課程編成で意識したことは、以下の通りである。

小学部 生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの指導と生活単元学習の時数や週時程表上の配置の適正化</li> <li>・身近な生活の中から取り上げたテーマを中核とした学習計画</li> </ul>
中学部 生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育てたい力を具現化するための効果的な地域資源の選定</li> <li>・地域から学ぶ、学びを地域に発信する等、学びを広げる学習活動の設定</li> </ul>
高等部 職業科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとの積み重ねのある指導内容の検討、実施</li> <li>・職業科の時数や週時程表上の配置の適正化</li> <li>・学び方に応じた学習形態（グループ）の検討</li> </ul>

#### (2) 教育課程編成に関する研修会の実施

教育課程等に関する基礎理解を高める目的で、研修会を実施した。授業改善COを講師に「教育課程と授業づくりのつながり」について、全職員で共有を図った。

### 2 児童生徒の「育てたい力」の検討及び共通理解

#### (1) 児童生徒の「育てたい力」の検討

学部研究会において、キャリア教育の重点事項について学部職員で共有した。また、「育てたい力」を焦点化するため、個別の指導計画を基に、在籍する児童生徒の実態と学部段階の重点事項を合わせて検討し、共通理解を図った。

#### (2) 各学部の研究テーマの設定

ライフキャリアの視点を基にした各学部の「育てたい力」を育むための研究テーマを設定した。各学部の研究テーマは、以下の通りである。ライフキャリアの3つの視点は、「役割を果たす」ことを通して、「自分らしく生きる姿」や「自己実現を果たす姿」に結び付くと捉えていることから、各学部ともに「役割を果たす」ことに着目し研究を進めた。

学 部	研究テーマ
小学部	自分のやること分かり、意欲的に活動に向かう姿を育む ～生活単元学習の実践を通して～
中学部	学習集団の中で役割を果たしながら、活動をやり遂げる姿を育む ～生活単元学習の実践を通して～
高等部	社会生活に向け、経験を生かしながら考え、判断し、行動する姿を育む ～職業科を中心とした実践を通して～

### 3 年間指導計画の作成

#### (1) 年間指導計画の様式の見直し

年間指導計画を題材一覧【研究対象となる単元とその他の単元や指導の形態との関連性が見えることを趣旨とした計画：A3用紙】

（図2）と指導の形態【単元の系統性や発展



図2 年間指導計画（題材一覧）

性が見えることを趣旨とした計画：A4用紙】  
 (図3)の2種類を作成した。年間指導計画の内容としては、学部の経営目標や学部における指導の形態の目標を記載する欄を設けることで教育課程編成の手順を意識できるように配慮した。

(2) 年間指導計画作成に向けた話し合い

4月、5月に年間指導計画に関する研修会を行い、年間指導計画の記載の仕方(目標と学習活動、評価等)と共に、年間指導計画作成に向けて授業者で計画を練り合う機会を設けた。



図3 年間指導計画(指導の形態)

II ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の実施と授業づくり

1 授業づくりの過程

授業づくりにおいては、図4にあるようにライフキャリアの視点を意識した指導計画をたて、授業改善C0と単元構想をし、キャリアノートで学びを残し、授業づくり振り返りシートで授業を評価し、指導計画の改善に生かす過程を積み重ねた。

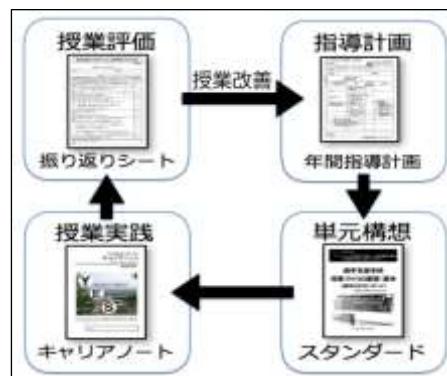


図4 授業づくりの過程

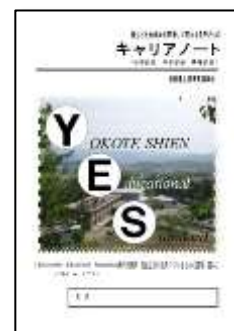
2 単元構想会

授業改善C0を交え、本校の授業づくりのための冊子「横手のスタンダード」を基にしながら、指導目標、指導内容等に着眼し単元構想会を実施した。また、指導目標達成に向け、地域資源を効果的に活用するための場所や目的の選定や吟味をした。

3 キャリアノート

一人一人の学びを積み上げ、振り返るために「キャリアノート Yokoteshien Educational Standard」(以下、キャリアノートと記載する)を活用することを周知し、各学部で活用方法やその目的を確認した上で、児童生徒の実態に応じて活用した。

学部	キャリアノートの活用の仕方
小学部	・児童が分かりやすいように「がんばりノート」という名称で作成し、学習の楽しさや頑張りを思い出したり、互いに認め合ったりするためのツールとして活用する。
中学部	・学習活動を通して感じたことや考えたことを授業でまとめ、次に生かすためのツールとして活用する。
高等部	・生徒が学びを蓄積し、自分の成長を実感するためのツールとして、教師は指導計画の立案、指導内容の選定のツールとして活用する。



#### 4 授業づくりと授業研究会

授業づくりにおいては、児童生徒一人一人のキャリア発達を促すことを目指して、各学年、学習グループ等で、授業研究会を1～2回行い、自己評価及び他者評価を得た。

研究会名	学部・学年・グループ等	回数
ミニ授業研究会 (授業提示と 30分間の授業研究会)	小学部1年、2・3年、6年	9回
	中学部2年、3年1組	
	高等部1年、2年職業2グループ、3年職業未来グループ、 3年職業笑顔グループ	
全校授業研究会	小学部4年、中学部3年2組、高等部2年職業1グループ	3回
公開研究会 (事前研含む)	小学部5年、中学部1年合同、高等部3年職業希望グループ	6回 (各2回)

全校授業研究会と公開研究会での提示授業と活用した地域資源及び得られた評価は、以下の通りである。

【成果・課題 子：児童生徒の変容 指：教師の指導・支援】

授業研究会名 【授業提示学年等】 「単元名」	単元の概要	成果
	活用した地域資源	課題
第1回全校授業研究会 【高等部2年1グループ】 「働く人になるために① 学校でできることを決めよう」	これまでの学習を基に自分自身を振り返り、職業ガイダンス等を利用し働くために大切な力について学び、2年生でなりたい姿や取り組む内容を定めることを目的とする。	子：学習への見通し 指：導入時のまとめの提示 指：ねらいが明確
	障害者職業センター	子：自分の学びのまとめ方 指：社会の動向を把握する 指：単元テスト(理解度の把握)
第2回全校授業研究会 【小学部4年】 「おひさまたい おぼけのゲームやをしよう」	おぼけの本の読み聞かせ等をきっかけとし、ゲーム屋を開く。計画や準備を通して、関わりを広げたり、自分たちが準備した物で友達が遊ぶ様子を見て、喜びや達成感などを味わうことを目的とする。	子：学習活動への期待感 指：振り返りの積み重ね 指：魅力ある教材
	読み聞かせの会	子：障害の重い児童の活動 指：自立活動の指導との関連 指：「育てたい力」の明確化
第3回全校授業研究会 【中学部3年2組】 「YKT読み聞かせ隊② ～むつまじい保育園のみなさんに楽しんでもらおう～」	保育園児への読み聞かせ(協力しながら成し遂げる活動を継続的に行うこと)を通して、自分や友達のよさに気づき、互いを必要としながら向上しようとする力を育てることを目的とする。	子：認め合う姿 指：共通の目的 指：生徒の発言の受け止め
	近隣保育園	子：協力するメリットの理解 指：板書の情報量 指：全体と個別のまとめ
公開研究会 【小学部5年】 「みちのえきの「おいしい」を みつけちゃおう、おしえちゃおう」	友達の居住地にある道の駅の見学や買い物を通して、それぞれの楽しいことやおいしい食べ物を見付け、それを友達、保護者など身近な人に伝えたり、感じた思いを共有したりすることを目的とする。	子：「できた」という満足感 指：テーマソングの活用 指：発表等の共有の場
	道の駅十字	子：相手への伝え方 指：一人でできる環境整備 指：活動量、難易度の調整
公開研究会 【中学部1年】 「横手のいいとこ、見たい、聞きたい、触れ合いたい3～自分たちの増田マップを作ろう～」	生徒の関心の高い地域の産業や文化、人と触れ合いながら、友達と協力して意欲的に調べ学習、マップ制作、発表活動に取り組み、地域や友達のよさに気づくことを目的とする。	子：生徒同士の認め合い 指：実態の応じた役割の設定 指：学習ルール
		子：学びの実感 指：考える機会の保障



	増田市街	指：めあてとまとめの整合性
公開研究会 【高等部3年希望グループ】 「イケてる社会人になるために④～知ってる？健康で楽しく生活するための方法～」	地元企業の協力を得ながら、家庭生活での役割を考えたり、働くことを中心とした生活をするために、健康的な家庭生活が基盤となることを理解したりすることを目的とする。	子：目的を理解し学ぶ姿 指：他者からのアドバイス 指：自分のこととしてのまとめ
	関係事業所	子：望ましい姿を知っている 指：評価の場（家庭との連携） 指：内容の精選

## 5 授業づくり振り返りシート

授業者が「授業づくり振り返りシート」（資料3）を用いて定期的に自己評価を行った（7月期、10月期、12月期と2か月に1度の頻度で実施）。実施は、授業者の個人評価と授業者間の複数名での評価を行い、授業改善に向けて、授業者間での練り合いの機会にもした。「授業づくり振り返りシート」では、授業（単元）構想、支援方法、教師の基本姿勢、学習活動、児童生徒の変容等の項目について評価した。授業づくり振り返りシートの集計結果（抜粋）及び読み取れる事柄は次のとおりである。【割合は、4段階評価の「よい」「概ねよい」の合計】

評価項目	7月期	10月期	12月期
・学校教育目標等や児童生徒（保護者）・教師の願いや思いを踏まえ、単元で育てたい力を具体化している。	56%	90%	94%
・他の単元や指導の形態との関連を明確にしている。	70%	74%	84%
・学習のめあてが提示されている（児童生徒が学習のめあてを理解している）。	94%	79%	89%
・児童生徒のめあてや教師のねらいを達成するための学習が展開されている。	69%	84%	94%
・まとめの時間が確保されており、児童生徒が本時の学びを実感できる工夫がある。	44%	55%	84%
・単元の中で、児童生徒の変容を見取ることができた。	81%	83%	100%

### ～読み取れる事柄～

- ・7月期は、昨年度の同時期に比べると、全体的に評価は上がっている。しかし、「育てたい力」の具体化や「まとめの時間」の確保の数値が低い結果となった。一方、児童生徒が学習のめあてを意識できるように意識して提示している様子が読み取れる。
- ・10月期は、「学校教育目標」や「育てたい力」を意識した授業づくりがなされている。一方で、「めあての提示」が下がっているが、自由記述を見ると「児童生徒にとって分かりやすい提示の仕方の工夫」等のより高度な課題意識が読み取れる。
- ・12月期は、「まとめの時間の確保」が著しく向上した。各学部の授業研究会で「まとめの仕方」が話題となったことから、意識的に授業づくりがなされていることが読み取れる。しかし、自由記述からは、「めあてとまとめの整合性」を高めることについての課題意識が読み取れる。
- ・昨年度の実施と比較すると、平均値で8%の向上が見られた。「横手のスタンダード」とリンクした評価項目となっており、意図的な授業づくりにも結び付いていると考える。「学校の教育目標を意識した授業づくり」や「育みたい力を明確にした授業づくり」など、全校で同じ方向性を向いて授業づくりできてきていることが読み取れる。

### Ⅲ ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の評価と改善

#### 1 年間指導計画の評価・改善（表1）

授業づくりで得られた評価を基に、年間指導計画を以下の時期、方法、視点で評価し、指導計画の改善に結びつけた。改善に関しては、指導計画の改善に加え、目的から学習グループの再編を行なった学年もある。

表1 年間指導計画の評価・改善に関わる時期、方法、視点

時期	・ミニ授業研究会の単元構想 ・単元終了後 ・学期末
方法	・授業づくり振り返りシート（自己評価） ・授業改善COの助言（他者評価）
視点	・指導目標 ・指導目標達成のための指導内容と学習活動 ・教師の手立て ・指導目標到達度（児童生徒の変容）

#### 2 キャリア教育全体計画の評価・改善（表2）

在籍する児童生徒の実態とキャリア教育の目標を摺り合わせ、教務部を中心としながら、今一度重点事項の文言や発達の段階についての整合性を検討した。その結果、「地域」の文言の追加が検討され、7月に平成28年度の改訂版が提示された。改訂部分に関しては、8月の研修会において、全校で周知した。

分掌部主任会\*5においても、キャリア教育推進に係わる各分掌の役割についての検討を行い加筆・修正等を行った。2月には、学習グループや各学部の授業づくりで得られた評価と児童生徒一人一人の変容を整理し、授業づくりと各学部の重点事項や学部経営目標との整合性を評価し、改善を図る。

表2 キャリア教育全体計画の評価・改善に関わる時期、方法、視点

時期 [担当]	7月 【教務部、研究部等】	9月 【分掌部主任会】	2月 【学級担任等】
方法	協議	協議	協議
視点	・「地域」の文言	・キャリア教育 推進の 各分掌の役割	・児童生徒の変容 ・重点事項の姿

\*5 各分掌部の主任が月1回、分掌間の連携や連絡調整を円滑に進めるために行う会。

#### 3 教育課程の評価・改善（表3）

教育課程の評価・改善に向けては、授業づくり等の即時的な評価・改善に加え、表3に記載した担当や組織によって定期的な評価・改善も行なった。特に、教育課程検討委員会（7月、12月）では、「小学部・中学部・高等部の系統性、発展性」「次年度の教育課程編成に向けた見直しと改善点の見極め」に視点を絞り実施した。そのことで、「役割を果たす」を学校生活や係活動に限らず、家庭生活や地域生活での「役割」に結び付く学習活動を展開することや家庭や地域と連携を密接にしていくこと、「学部の系統性、発展性」としては、中学部から高等部へ進学する際に学習集団が大きく広がることを想定した集団の中で自分らしさを発揮する姿を育てることやそのための進路指導の充実が確認され、以降の教育課程の改善に反映させた。

表3 教育課程の評価・改善に関わる担当、方法、視点

担当 [時期]	分掌部 【学期末】	各学部 【学期末】	教育課程検討委員会 【4、7、12、2月】	県南特別支援学校 教育課程等協議会 【6、9、1月】
方法	秋田型 学校評価	アンケート 及び協議	協議	意見交換
視点	・基本方針 ・指導計画	・ライフキャリア ・学部経営の重点	・学部の系統性、 発展性 ・改善点の見極め	・段階的な 地域資源の活用 など

授業研究会の協議では、授業改善に加え、教育課程に関する協議も行った。協議に関しては、「学習や経験を生活に結び付けるための方策」「生活単元学習と他の指導の形態との有



効な関連付け」「学習集団の中で、役割を果たそうとする姿を育むための学習」「単元構想の在り方」「3年間を見通した積み重ねのある指導の在り方」「家族や働く場との連携を構築するための手立て」等の協議題で進めた。

1・2学期の実施から挙げた成果・課題や授業研究会の協議で得られた示唆を基に、次年度の教育課程の編成を行っている。次年度の教育課程編成に向けた各学部の共通事項としては、以下の3点を基に検討している。

- 発達の段階と生活年齢、児童生徒の教育的ニーズ、障害の多様化に対応する具体的な取組
- 目指す将来像を明確にした具体的な取組
- 将来の生活に必要な基礎的・基本的な力を育成するための具体的な取組



授業者による年間指導計画の練り合い



授業改善COを交えた単元構想会



「授業づくり振り返りシート」を基にした指導計画の改善



肢体不自由児に対する授業づくり（研修会）

## IV 小学部の実践

### 1 研究テーマ

自分のやることが分かり、意欲的に向かう姿を育む  
～生活単元学習の実践を通して～

### 2 テーマ設定の理由

#### (1) 児童の実態

児童それぞれに好きな活動があり、学習活動に向かって自分から取り組もうとすることが増えているものの、時間いっぱいじっくり活動に取り組むことが難しかったり、友達の様子が気になり、自分の活動から気持ちがそれてしまったりすることがある。児童の興味・関心の高い活動を中心とした単元を展開したり、活動の流れやめあて等の視覚的な提示や、学習環境の工夫を図ったりすることで、最後まで活動に取り組もうとすることが増えてきている。

#### (2) 小学部において育てたい力

キャリア教育の重点事項（小学部）【役割を果たす、自分らしく生きる、自己実現を果たす】は、「自分の役割が分かり、役に立つ喜びを感じる児童」、「好きな遊びや活動に進んで取り組む児童」、「自分で決めたことを最後までやり遂げようとする児童」（要点抜粋）である。在籍する児童の実態と合わせ、小学部段階で育てたい力をより焦点化するために学部職員で検討した結果、低学年：「好きな活動に向かって、自分から取り組む力」、中学年、高学年：「学習のゴールに向かって、じっくり活動に取り組む力」、「人の役に立つ喜びを感じながら、役割を意識して自分から活動する力」が挙げられた。また、小学部段階として、「友達と同じ場で活動し、共に学ぶ楽しさを共有する」ためにも、前述した3つの力を育みたいという意見が挙げられた。

#### (3) 今年度の研究

昨年度の研究では、周囲と関わりながら主体的に活動する姿を目指し、各単元の目標や展開の見直しを図ったことで、児童の興味・関心の幅が広がり、期待感をもって活動に向かう児童の姿が見られた。その成果を踏まえ、二年次は、遊びの指導と生活単元学習の時数や配置の適正化を図ると共に、より身近な生活の中から取り上げたテーマを指導計画の中核に据えて実践研究することとした。

今年度は、生活単元学習の中で、地域資源を活用しながら、活動の流れや手順等の学習環境の工夫や、学習の振り返りに重点を置いた授業づくりを行う。また、授業づくりを積み重ねた成果を整理し、教育課程の評価・改善（主に指導計画、指導内容等）を行う。

授業づくりにおいては、児童が学習に期待感をもち、活動の流れや自分の役割が分かって活動することができるよう、学習活動への動機付けや関わりの広がり、校内資源のみでは得られない達成感を得るために、実際の、体験的な学習の場として地域資源を活用する。また、学習の楽しさや、自分や友達のがんばりを思い出したり、認め合ったりするためのツールとしてキャリアノートを活用していく。

これらのことから、自分が今やることや、学習のゴール、役割などが分かり、学習の中で期待感や大きな達成感を感じながら、一人一人がそこに向かって意欲的に活動する姿を育みたいと考え、本テーマを設定した。

### 3 研究仮説

地域資源を活用しながら、学習環境の工夫や学習の振り返りに重点を置いた授業づくりを継続して行うことで、自分のやることや役割が分かり、学習の期待感や達成感を感じながら、意欲的に活動することができるだろう。

## 4 研究の実際

### (1) 教育課程の編成（計画）

- ①小学部の教育課程の確認と検討（4月、7月、8月、12月、3月 学部職員で実施）  
学部会で、今年度の教育課程について全職員で協議し、学部目標と重点事項、週時程等を確認し、共有した。（4/1、4/5）
- ②小学部で育てたい力と、活用する地域資源の検討（5月 学部職員で実施）  
学部研究会で、小学部のキャリア教育の重点事項と児童の実態を合わせ、学年ごとに協議を行うことで、小学部で育てたい力の検討と共有を行った。（5/11、5/18、5/25）
- ③年間指導計画と、小学部で育てたい力やそれに関わる地域資源についての検討（5/25）

### (2) 教育課程の実施と授業づくり

#### ①授業研究会

実施時期	研究会名	学習グループ	主な改善案等
7・8月	ミニ授業研究会	1年、2・3年、6年	・板書を含めた言語活動の充実 ・各教科の要素をさらに取り入れる
10月	全校授業研究会	4年	・児童にとって分かりやすい目標の設定と即時評価 ・中心となる活動時間の確保
11月	公開研究会 (事前研究会含む)	5年	・めあてとまとめの整合性 ・主体性を引き出す教師の支援の在り方

- ②単元構想会（6/14：小2・3、6/15：小1、7/13：小5、7/4：小6、7/25：小4）  
今年度の生活単元学習の年間指導計画を基に、授業改善C0、研究主任を交えて、生活単元学習の構想について協議を行った。併せて、授業研究会における提示授業についても、協議を行った。
- ③生活単元学習の毎月の単元構想と、前月の単元の振り返り【授業づくり振り返りシートの活用を含む】（7月～）  
学年ごとに、前月の授業づくりについて、授業づくり振り返りシート等を活用し、指導内容や指導方法の評価と改善を図った。また、次単元の構想を行い、教頭からの助言を基に、指導計画に生かした。
- ④キャリアノートの活用と検討  
学部研究会で、キャリアノートを活用する意義を確認するとともに、活用の仕方を共有した。（5/11、7/20）
- ⑤学習会の実施 [全体]・キャリア教育、自立活動、合理的配慮など  
[学部]・板書の生かし方と教材研究（8/3）  
・生活単元学習の実践等について（8/31）  
・授業の流れと板書について（9/28）
- ⑥生徒の変容の評価  
ア 個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し（随時）  
イ 年間指導計画の評価及び計画、単元構想、目標の見直し（10月～）  
ウ キャリアノートのまとめによる評価（単元ごと）

### (3) 教育課程の評価・改善

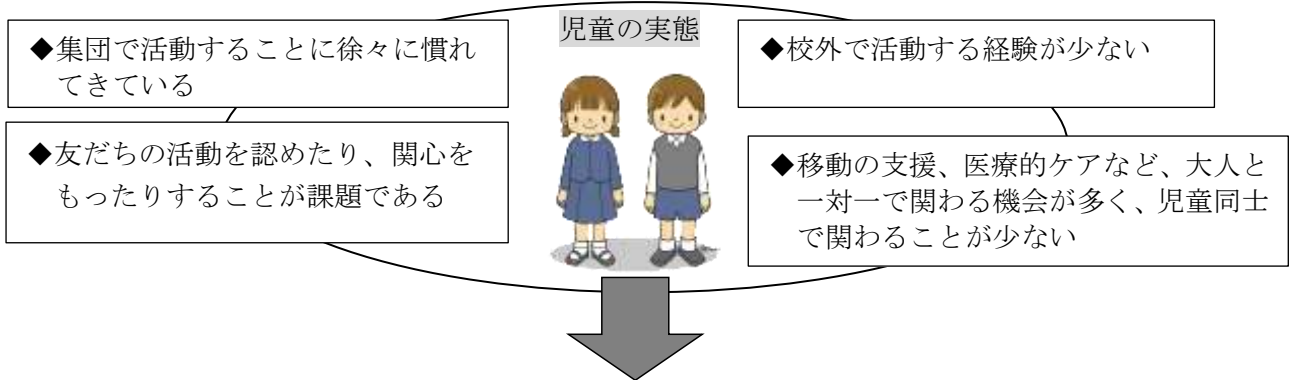
- 1学期の教育課程について、アンケートによる成果と課題を学部全職員で協議し、2学期に向けての改善点を共有した。（7/15、7/20、8/22）
- 2学期の教育課程について、学部全職員で成果と課題を協議し、検討と改善を図った。また、3学期に取り組むべきことを共有した。（12/2、12/9、1/11、2/14）



5 授業づくりの実際【小学部5年生 生活単元学習の実際】

(1) 単元名「道の駅じゅうもんじの「おいしい」をみつけちゃおう、おしえちゃおう」

(2) 授業計画



単元目標

- ①友達と一緒に集団活動を楽しみながら、校外学習で買い物をする。
- ②地域に出かけて楽しかった・おいしかった経験を身近な人に伝える。

単元観

- 道の駅十文字の見学や買い物、食事等を通して、5名それぞれの楽しいことやおいしい食べ物を見つけ、それを学級や校内の友達、保護者など身近な人に伝えたり、感じたことなどの思いを共有したりする学習である。
- 友達と一緒に活動する楽しさを味わいながら、道の駅十文字の利用を通して買い物の仕方や校外での活動のルール・マナー、地域を知る活動など、多くのことを主体的に学ぶことができると考える。
- 事後は行ってきたこと、おいしかったものなどを家族や友達など身近な人に伝え、思いを共有していくことで、相手に伝える嬉しさを感じたり、次の活動への意欲を高めたりすることができると思える。

単元計画

小単元名	主なねらい	活動内容	時間
1 道の駅の「おいしい」をみつけちゃおう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習の目的や行き先が分かり、期待感をもつ。</li> <li>・簡単な買い物の仕方が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行き先の写真を見る。</li> <li>・地図を見て、行先を確認する。</li> <li>・約束事を考える。</li> <li>・昼食のメニューを知る。</li> <li>・道の駅十文字で売っているものを写真で見で知る。</li> <li>・買い物の練習をする。※事前研究会（11/9）</li> </ul>	4時間
2 道の駅で「おいしい」をみつけちゃおう（校外学習）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外での活動や公共施設等利用時の約束やマナーが分かり、友達や教師と一緒に行動する。</li> <li>・自分で好きな物を選んで簡単な買い物や食事をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や教師と一緒に、道の駅十文字の施設内を見る。</li> <li>・産直市場で、自分の食べたいものを探す。</li> <li>・食べたいものを選んで買い物をする。</li> <li>・メニューから選び、注文する。</li> <li>・食事をする。</li> </ul>	4時間
3 道の駅の「おいしかった」をおしえちゃおう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習のまとめを友達や身近な人と共有し、楽しい気持ちを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ「おいしい」ものを学級の友達と紹介し合う。</li> <li>・買って来たリンゴジュースでゼリーを作り、友達や保護者に試食してもらい、感想を聞く。</li> <li>・友達においしかったもの等を教えるグッズ（感想・写真、レシビをまとめた用紙やリンゴポプリなど）を作る。</li> <li>※公開研究会 11/22</li> <li>・小学部の友達に紹介する。</li> <li>・次回の校外学習の内容を考える。</li> </ul>	9時間





(3) 授業づくりと授業改善

①単元構想会による授業づくり (9月) ※前単元「きらきらのなかまとでかけよう～あさまいこうえん」をふまえて

検討事項及び内容		授業づくりの方向性
単元計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が単元名（「きらきらのなかまとでかけよう～じゅうもんじの『たのしい』をみつけよう」）を聞いて、活動をイメージしづらい。</li> <li>校外学習の見学先や日程を盛り込みすぎているのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習の目的を見直す。当初十文字地区内にある公園や他公共施設を利用・見学することを考えていたが、校外学習当日の活動時間に収まりきれないので、場所を『道の駅十文字』に限定し、目的を「おいしいものを見つける」「見つけたものを家族や友達に教える」に絞る。</li> <li>単元名は「じゅうもんじのおいしいをみつけちゃおう・おしえちゃおう」に変更する。</li> <li>寒い時期でもあり、体調面も心配されるので、無理のない範囲で活動をする。</li> </ul>
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が単元全体や本時の学習の流れが分かるような手立ては適切か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書や掲示物の工夫が必要である。（※阿部教頭先生の板書計画）の講話を参考に、本時のねらい等必要な情報が伝わりやすい板書計画を立てる。</li> <li>教室環境を見直す。視覚情報量の精選・整理をする。</li> </ul>
他の指導の形態との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の単元や指導の形態との関連性があるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部学習指導要領の各教科の主に生活科の内容から「金銭」「社会の仕組み」「公共施設」等を取り上げて指導を行うことにする。</li> <li>買い物に自信がもてない児童には、算数で金銭の扱いについて取り上げて学習する。</li> </ul>

②授業づくり改善シートによる授業改善 (10月) ※前単元「きらきらのなかまとでかけよう～あさまいこうえん」をふまえて

●児童の姿や思い 	■考えられる原因 @：授業づくり振り返りシートの評価項目	☆改善点 
<ul style="list-style-type: none"> <li>●校外学習に行きたいけど、自分で買い物ができるかな。</li> <li>●早く行きたいな。いつ行くのか、不安だな。</li> </ul>	<p>@単元構想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■校外での活動の経験が少なく、自信がない。</li> <li>■「いつ、なにをするか」が分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆買い物の練習を教室で行う。 →学習に落ち着いて取り組む様子が見られた。</li> <li>☆視覚的支援が有効であるので、単元計画表、校外学習当日の日程、約束等細やかに掲示する。各時間の導入の説明時や振り返りの評価表として活用する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●気持ちが落ち着かないな。</li> </ul>	<p>@支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■教室内の視覚的刺激が多い。</li> <li>■友達の話す言葉や行動が気になる。</li> <li>■移動に支援が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆教室前方は、必要最小限の掲示物にする。</li> <li>☆児童に伝わりやすい話し方をする。児童の発言を受け止めて返し、周りの児童にも安心できるような言葉を伝える。</li> <li>☆安全に移動できる動線の確保をする。</li> </ul>

③事前研究会による授業改善(11月) ☆11月9日の事前研究会、→は、次時以降改善した部分

検討事項	☆改善点
導入の工夫	<p>☆活動内容の説明を短くし、学習活動時間の確保をする。 →模擬授業を行い、説明や言葉の必要・不要部分を精選したことで、必要なことだけが伝わり、短い指示で活動に取り組むことができた。</p> <p>☆地区名や居住している友達の名前などを入れたテーマソングを取り入れる。 →行き先等が分かったり、友達の家の近くにどんな場所があるのかなどの興味をもったりすることができた。また、校外学習への期待感や学習活動の見通しをもつことができた。</p>
教室内・板書等の環境の工夫	<p>☆視覚的刺激が多いので、学習計画表に書かれている既習部分は隠してもよいのではないかと。 →既習部分については、必要に応じて提示した。板書も、児童それぞれの顔写真を掲示し、課題を終えたらひっくり返して「できた」の笑顔写真に変える活動を取り入れたことで、学習の終了が分かって達成感を感じる児童の姿が見られた。</p>
個別の学習課題	<p>☆買い物の練習で、4人中3人の児童に「品物をひとつ選ぶ」「おつりとレシートを財布にしまう」という二つの同じめあてを提示したが、もっと細かく分析すれば個々でねらいが違ったものになるのではないかとという助言をいただいた。また、個別の目標を焦点化するとよいとの助言を受けた。 →担任間で、個別の目標の再検討をした。買い物学習に不安をもっている児童については、算数科の学習時に金銭の種類などを取り扱うことで、不安を取り除くことができた。 →自立活動の時間に五感を使った学習に取り組んでいる児童の課題について、本単元でも同様に「触感」「嗅覚」等を使って取り組める課題を用意した(りんごの皮のポップリ作り)。</p>
本時の振り返り	<p>☆本時の学習の振り返りで、友達の発表を全員で見合う時間を設けたが、児童それぞれが目目・評価するポイントが分かりづらかった。 →『学習の最後に全員で見合う』ことだけにこだわらず、学習活動中にそれぞれの児童のめあてに沿ったがんばりを適時評価することで、自分や友だちのがんばりに気付くことができた。</p>
児童同士のやりとりの場の設定	<p>☆児童の活動を互いに見合う活動を用意する。 →トラブルや危険の防止を第一に考え、児童同士が直接やりとりをすることを取り入れることができなかつたが、学習活動の様子を見る場面を設定したことで、「友達が私と同じ物を選んでるから、うれしい。」と友達を意識した発言が増えたり、友達が使用する道具を運んでくれたりする姿が見られるようになった。</p>

(4) 本単元における成果・課題(生徒の変容 ○成果 △課題)

- 年間を通して生活単元学習で校外学習を3回実施したことで、友達と一緒に活動することの楽しさを感じたり、校外でのルール・マナーを意識しながら校外での学習活動に取り組んだりする姿を見ることができた。事前学習で買い物の練習に取り組んだことや、算数科で金銭について学習を補ったことで、校外学習当日は自信をもって買い物をすることができた。
- 校外学習で見つけたおいしい食べ物を家族に伝える活動を行い、家族へゼリーを振る舞った後「おいしかった。」「今度一緒に行こうね。」など子どもたちの活動に共感するような返答ももらったことで、「また行きたい。」「次はどこに行こうか。」など次の学習を楽しみにする姿を見ることができた。
- 「子どもたちにとって身近な場所を取り上げたことで、「十文字には、他に楽しいところがあるかな。」と地域に関心をもつ様子が見られた。
- 環境を整えたことで、学習に見通しをもつことができ、期待感をもって学習に取り組む姿が見られるようになった。他の単元でも次の学習を気にしたり、期待したりする姿が見られるようになってきた。
- 友達の発表をよく注目したり、見て笑ったり、「すごくいいね。」と相手の行動を認めたりする

姿が見られるようになった。

△児童にとって分かりやすいめあてを工夫し、教師側のねらいとすり合わせる必要がある。

△一人で学習課題に取り組むことができる学習課題や課題量、教室内の動線や机上の整理・工夫をする必要がある。

## 6 学部の実践の成果と課題

### (1) 成果

- ・「役割を果たす」という視点からは、板書でのめあてや活動の共有、学習環境の工夫を行うことで、児童がやることを理解し、自分から活動に向かったり、集中して取り組んだりすることができるようになってきた。また、友達と一緒に最後まで活動に取り組む姿が多く見られるようになった。
- ・「自分らしく生きる」という視点からは、学習活動において、効果的な場面で地域資源を活用したことで、児童が活動に意欲的に取り組み、友達や周囲の人と関わりながら活動を思い切り楽しむことができた。また、校外の人との関わりや、校外での活動を通して、興味・関心の幅や、友達や周囲の人との関わりが広がり、学校生活に期待感をもちながら過ごす児童が多く見られるようになった。
- ・「自己実現を果たす」という視点からは、学年の実態に合わせて振り返りの時間を調整し、その中で一人一人のがんばりを認めることで、自分の活動に達成感を感じるだけでなく、児童同士でよさを認め合う場面が見られるようになった。また、地域資源を活用し、読み聞かせやピアノ演奏を行った地域ボランティアの方々から、学習活動に対して感想や評価等を聞く機会を設定した。そのことで、自分たちでできたという自己評価だけでなく、友達や地域ボランティアからの他者評価を得て、大きな達成感を感じ、自信をもって活動に向かう姿が見られるようになった。
- ・教育課程を検討・改善していく上で、生活単元学習だけでなく、国語科、算数科、体育科の学習グループ編成や、自立活動の特設等、個々にあった教育課程を考え、職員全体で共有することができた。

### (2) 課題

- ・授業づくりにおいては、児童が自分で工夫したり、伝えようとしたりする場面が見られてきているため、さらに自分で考えて行動したり、意見を出したりする機会を設定していく必要がある。児童とのやりとりの中で指導計画を柔軟に変えながら、主体性を引き出していきたい。また、個々のめあてが、児童にとって少し分かりにくく、がんばったことへの評価が伝わりにくいことがあった。児童にとって何をがんばるのかを具体的に意識できるようめあての設定を行い、即時評価をしながら、意欲や達成感につなげていきたい。
- ・キャリアノートについては、単元の終わりに、学習のまとめとしてキャリアノートにどれくらい時間を使用するか、どこまで児童主体で作成するかということが検討事項として挙げられた。小学部は「学習の楽しさやがんばりを思い出したり、認め合ったりするためのツール」としてキャリアノートを活用していくことを再確認し、今後も、児童がコメントを書く、写真を選ぶ、教師の作成したノートをファイリングする等、児童の実態に合わせて作成し、頑張りや達成感を積み重ねていきたい。
- ・生活単元学習での学習内容が音楽科や図画工作科等の内容に偏りがちになることがあり、単元構想会等で検討・改善を行った。今後は、一人一人の育てたい力を再確認するとともに、生活単元学習の学習内容に、各教科の内容がバランスよく盛り込まれているか、年間指導計画を作成時に検討し、各教科との関連性を図る必要がある。また、重度重複障害を有する児童については、自立活動の視点からも目標を設定していく。
- ・生活単元学習の毎月の単元構想や振り返りを行ったが、負担感があり、回数を減らしたり、助言を授業に生かし切れなかったりすることがあった。しかし、年間を通して主要な単元を評価・改善していくには有効であったため、助言を基に指導計画や内容を改善しやすいように、今後は年間指導計画と照らし合わせ、時期を設定し直す必要がある。また、各学年の単元構想や振り返りを、近隣学年のグループで話し合ったり、学部全体で共有したりしながら、小学部職員全体で授業実践に生かすことができるようにしていきたい。

## V 中学部の実践

### 1 研究テーマ

学習集団の中で役割を果たしながら、活動をやり遂げる姿を育む  
～生活単元学習の実践を通して～

### 2 テーマ設定の理由

#### (1) 生徒の実態

自分の行動に自信がもてずに失敗を恐れがちであるものの、自分たちで話し合ったり、協力して課題を解決したりする経験を積み重ねることで、友達と一緒に目的に向かって取り組もうとする姿が見られるようになってきている。また、地域資源を活用した学習活動を繰り返す中で、見通しをもって安心して取り組んだり、自分の得意な活動やよさに気付き、主体的に活動したりする姿が現れるようになった。加えて、地域の方から称賛や感謝の言葉をいただくことで、喜びややりがいを感じながら学習に向かう生徒が増えてきている。

#### (2) 中学部において育てたい力

キャリア教育の重点事項（中学部）【役割を果たす、自分らしく生きる、自己実現を果たす】は、「自分の役割を理解し、継続的に取り組む生徒」、「自分のよさを認める生徒」、「自分で決めた目標に向かって課題を解決しようと取り組む生徒」（要点抜粋）である。

在籍する生徒の実態と合わせ、中学部段階で育てたい力をより焦点化するために学部職員で検討した結果、「学習集団の中で、落ち着いて学習に向かう力」、「他者との関わりの中で、自他の差異やよさを理解する力」、「自分で決めた役割を果たそうとしたり、最後までやり遂げたりする力」が挙げられた。

#### (3) 今年度の研究

昨年度の研究では、年間を通して地域資源を活用した学習活動を展開したことで、地域で様々な人と関わり、コミュニケーションの取り方や地域の文化を覚えることにつながった。また、生徒同士が互いに言葉を掛け合ったり自発的にリーダー的な役割を担ったりするなど、活動への取り組み方に変容が見られた。

今年度は、生活単元学習の中で、学習の場や内容を発展させていく授業づくりを行う。また、授業づくりを積み重ねた成果を整理し、教育課程の評価・改善（3年間を見通した目標、指導計画、指導内容）を行う。

授業づくりにおいては、学習活動への大きな動機付けとなっている地域資源を活用する。生徒が自分の役割を果たし、活動をやり遂げ達成感を感じられるように、活用方法を吟味した地域資源から学び得た成果を発信し、学びを広げる学習活動を展開していく。また、そのような学習活動に3年間を通して取り組み、学習活動を通して感じたことや考えたことを授業でまとめ、次に生かすためのツールとしてキャリアノートを活用していく。

これらのことから、生徒が自分の目標や活動内容が分かり、様々な学習集団の中で自分たちが決めた役割を果たしながら最後まで取り組む姿を育みたいと考え、本テーマを設定した。

### 3 研究仮説

地域資源を活用し、生徒が学習集団の中で、自分たちで決めた役割に取り組むことができる授業づくりを積み重ねることで、一人一人が責任をもって活動をやり遂げることができるようになるだろう。



#### 4 研究の実際

##### (1) 教育課程の編成（計画）

###### ①教育課程の確認

学部会において、今年度の教育課程について全職員で協議し、学部目標や重点事項、週時程の確認をし、共有を図った。（4/1、4/5、4/13）

###### ②育てたい力の検討と共有

学部会（6/8）及び学部研究会（5/18、7/13）において、中学部のキャリア教育の重点事項と生徒の実態を照らし合わせた。また、学年のグループ協議を行うことで、中学部で育てたい力の検討と共有を図った。（5/11）

###### ③年間指導計画と地域資源の関連の検討

学年において、年間指導計画と地域資源の関連の検討を行った。（5/11、5/25）

##### (2) 教育課程の実施と授業づくり

###### ①授業研究会

実施時期	研究会名	学習グループ	主な改善案等
7月	ミニ授業研究会	2年、3年1組	・効果的な地域資源の活用を目指した単元計画や活動内容の見直し
10月	全校授業研究会	3年2組	・生徒同士の意見交換設定 ・板書構成の在り方
11月	公開研究会 (事前研究会含む)	1年	・めあてとまとめの整合性 ・主体性を引き出す教師の支援の在り方

②単元構想会（6/29：2年、3年1組、9/1、9/21：3年2組、8/26、9/7：1年）  
授業研究会における提示授業について、授業改善COや教育専門監、学部主事、研究主任を交えて単元について協議を行った。

③授業づくり振り返りシートを活用した授業づくりの評価と反省、年間指導計画の確認及び修正（7月～）

学習グループごとに、前月の授業づくりについて授業づくり振り返りシートを活用し、指導計画や指導内容等の評価と改善を図った。

④キャリアノートの活用及び修正（7月～）

各学期や各単元での活用状況や在り方について、学部全体や各学習グループで情報交換を行い、修正を図った。

⑤学習会の実施（随時）

キャリア教育、合理的配慮、授業のユニバーサルデザインなど

⑥生徒の変容の評価

ア 個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し（随時）

イ キャリアノートのまとめによる評価（授業、単元、学期）、生徒により自己評価や他者評価、教師の客観的評価

ウ 本人や家庭との面談による評価（8月、12月、1・2月）、連絡帳等での伝達（随時）

⑦教育課程の評価・改善

1学期の教育課程について、学部全職員で成果と課題を協議し、検討と改善を図った。また、2学期に取り組むべきことを共有した。（7/15、7/20、8/22）

2学期の教育課程について、学部全職員で成果と課題を協議し、検討と改善を図った。また、3学期に取り組むべきことを共有した。（12/2、12/9）

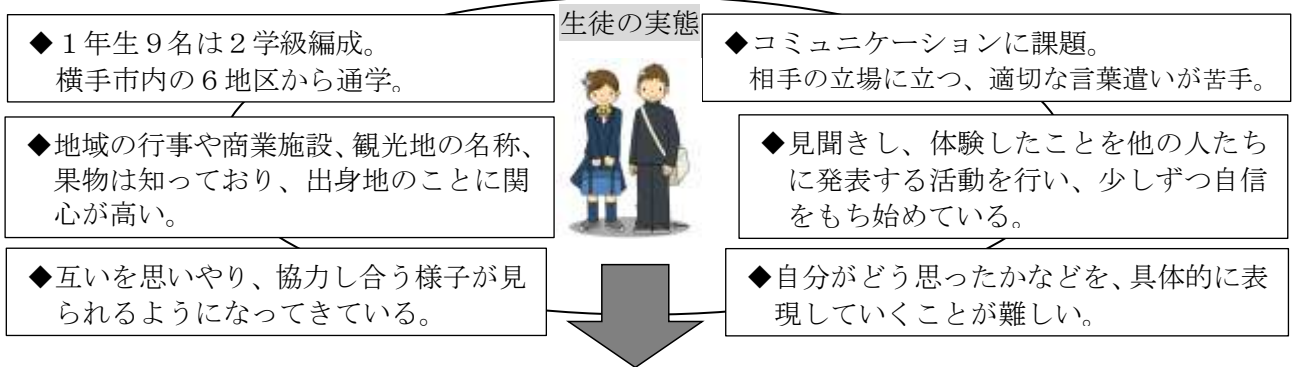
今年度の教育課程について、学部職員で成果と課題を協議し、次年度の教育課程の方向性を確認した。（1/11、2/14）

5 授業づくりの実際【中学部1年生 生活単元学習の実際】

(1) 単元名「横手のいいところ、見たい、聞きたい、ふれあいたい3

～自分たちの増田マップを作ろう～

(2) 授業計画



**単元目標**  
 ①増田町のマップに載せる内容について、調べたことをもとに考えたり、話し合ったりしながら決め、友達と協力しながらマップ作りをやり遂げる。  
 ②増田町のマップ作りにおいて、今やるべきことが分かり、自分や友達によさに気付きながら、自分の役割を果たす。

**単元観**  
 ○本単元は、生徒が関心の高い地域の産業や文化、人との触れ合いなどの体験活動を中心に据えた学習である。  
 ○調べ学習やマップ制作、発表活動において友達と協力して意欲的に取り組む姿が期待できる。  
 ○一連の活動を通して、役割を分担して協力したり、友達によさに気付いたり、責任をもって最後まで役割を果たそうとしたりすることのできる単元である。

**単元計画**



小単元名	主なねらい	活動内容	時間
1 増田町ってどんなところ？	<ul style="list-style-type: none"> <li>今やるべきことが分かり、「増田」の文字を手がかりに、増田町に関する事物を見付ける。</li> <li>自分が調べたことと身近な先生方に教えてもらったことを比較して、マップに載せる内容を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習があること、日時を知る。</li> <li>マップを作り、それをパンフレットにして増田町のお世話になるところに置いてもらうことを知る。</li> <li>横手市を紹介するパンフレットを見て、増田町の自慢を見付ける。</li> <li>増田町のよいところを身近な先生方にインタビューする。</li> <li>調べる対象を決め、グループ分けをする。</li> </ul>	1時間
2 増田町について調べ、インタビューの練習をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割が分かり、友達と協力してインタビューの練習をする。</li> <li>自分の生活や経験から、訪問先の方の気持ちを想像して、質問内容を考え、意見を出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習の行き先を知る。</li> <li>リンゴと蔵について調べ、紹介カードに記入する。</li> <li>インタビューの内容を考える。</li> <li>インタビューのための小道具を作る。</li> <li>インタビューの練習をする。※事前研究会（11/9）</li> </ul>	5時間
3 増田町へ行って調べよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習で確認したことを意識してインタビューして、自分の役割を果たす</li> <li>訪問先での見学やインタビューを通して増田町のよいところを体験する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習の約束や日程等を知る。</li> <li>リンゴ園と蔵を見学・利用体験する。</li> <li>自分たちが調べたことをもとに、訪問先の方にインタビューする。</li> </ul>	6時間
4 増田町について、分かったことをマップにしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>増田町での体験を通して、新たに分かったことなどを基に考えたり、友達と話し合ったりしてマップ作りをやり遂げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習で調べたことから、分かったことや、伝えたいことを紹介カードにまとめる</li> <li>増田町のマップを作る。</li> </ul>	4時間
5 中学部のみんなに紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表する際に気を付けることが分かり、それを意識して練習し、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに、発表内容、発表の仕方を考え、役割分担する。</li> <li>発表のための原稿、小道具等を作る。</li> <li>発表練習をする。※公開研究会（11/22）・発表をする。</li> </ul>	4時間
6 増田町のマップ作りを振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回のマップ作りや発表を通して、自分ができるようになったことや友達のおかげでよかったところが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マップについてのアンケート結果や感想を聞く。</li> <li>感想やアンケート結果から、次回何に気を付けて調べたり、発表したりするとよいのかについて話し合い、確認し合う。</li> </ul>	2時間

(3) 授業づくりと授業改善

①単元構想会による授業づくり(9月)

検討事項及び内容	授業づくりの方向性
年間指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月のかまくらでのおもてなしで活用できるパンフレットにまとめることを生徒に提案する。</li> <li>・4回の小単元を設定することで、生徒に目的意識をもたせることにつながり、意欲的で主体的な姿を引き出していけるのではないかな。</li> </ul>
単元名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「調べたい」がゴールでいいのかな。生徒の合い言葉としても使いたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「調べたい」を「ふれあいたい」に変更する。教師の願いが「周りとのよい人間関係を作る力」であるため、友達と一緒に関わり、訪問先の方との触れ合いを大切にしたい。</li> </ul>
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前単元で、6カ所へ質問して答えを聞き取り、メモする活動に対して生徒が混乱したため、学習活動を精選し、調べる対象を絞り込む。</li> </ul>

②授業づくり改善シートによる授業改善(10月)

●生徒の姿や思い 	■考えられる原因 @: 授業づくり振り返りシートの評価項目	☆改善点 
●校外学習って楽しそうだな?何をしに行くのだろう?	@単元構想 ■校外学習だけが先行し、生徒が目的を理解していない。	☆目的をはっきりさせ、単元の導入の仕方を工夫する。
●僕は誰と何をするのか? (授業中ぼんやり)	@支援方法 ■学習内容がイメージしにくい。 ■全体活動から個別の活動への流れが理解できていない。	☆単元名を表す動作を授業の初めに行い、導入を印象づける。 ☆分かりやすい単元名にする。 ☆学習グループ編成を工夫する。 ☆全体計画を分かりやすく提示する。
●友達は何してるんだろう?どうでもいいか...	@学習活動 ■友達の活動への関心が薄い。	☆生徒同士が互いの動きを意識できるような流れにし、主体的に協力できるように見守る。 ☆積極的に生徒同士のやりとり場面を増やす。 ☆友達からの評価を得る機会を設定する。

③事前研究会による授業改善(11月)

検討事項	☆改善点
板書計画	☆めあてと振り返りの整合性を図る。 →学習の成果や次時へのつながりを考えた振り返りを板書で示す。 生徒の意見を取り上げ、板書し、自ら考えるきっかけとする。
生徒同士のやりとりの工夫	☆生徒主体の授業づくりに向けた支援を行う。 →教師の言葉掛けなど支援の在り方を見直す。
ねらいの焦点化	☆授業のねらいの他、身に付けさせたいことなど焦点を絞り、提示する。 →めあてを絞り、育てたい力に近づける。

(4) 本単元における成果・課題(生徒の変容 ○成果 △課題)

- 実際の体験を通して、生徒の興味・関心が広がった。
- グループの友達と協力して活動に取り組めるようになった。友達を自然に助けるような行動がいろいろな場面で見られた。
- 友達のよいところを見つけたり、友達からよいところを認めてもらったりするなかで、互いを認め合い、仲間意識を築いていくことができるようになった。

- 授業でのやりとり場面を増やすことで、自分の意見を積極的に出し、友達の発言を認めるような場面が見られた。
- 自己中心的な聞き方、話し方、学習態度の見られた生徒が、目的意識をもって質問したり、話を聞いたりできるようになった。
- 地域の施設等の知識はあったが、見学したり、話を聞いたりすることを通して、学習目的を生徒たちがしっかりもつことができた。
- △発達の段階や障害特性の異なる生徒たちの積極的なやりとりを促す授業づくりはどうあればよいか。
- △めあてを意識し、目的をもった振り返りをどのように工夫していけばよいか。
- △生徒がより主体的に授業に取り組むための授業づくりはどうあればよいか。

## 6 学部の実践の成果と課題

### (1) 成果

- ・生徒が役割を理解し主体的に取り組めるように、単元作成時に、学習集団での役割活動について検討を深めた。「役割を果たす」ために、一人一人の得意な面に目を向け、特性に応じた活動内容を考えたことで生徒たちの意欲的な姿につながった。また、役割分担を生徒の話し合い活動として設定したことで、各々生徒が役割に責任をもち、協力して取り組む姿が見られてきた。
- ・「自分らしく生きる」の視点では、自己理解や他者理解の視点を大切に、キャリアノートを授業での振り返りで活用した。生徒たちはお互いに工夫したことやよかった点に気付き、認め合うことで、自分を知ることができ、理解が深まるきっかけとなった。日常生活場面でも友達への優しい言葉掛けやさりげない手助けなど周りを意識し、気遣う生徒が多くなってきている。
- ・地域資源の活用にあたっては、年間指導計画作成時、各教科等と関連付けて授業づくりを行い、効果的な活用を目指した。「自己実現を果たす」ことができるように、学習への動機付けとして地域資源を用いたことで、生徒たちは、目的意識をもち、見学や体験を通して自信を付け、最後までやり遂げることができた。

### (2) 課題

- ・授業づくりでは、「めあて」と「まとめ（振り返り）」の整合性が課題として挙げられる。「活動の精選」「めあての精選」を図り、内容をシンプルにし、分かりやすい授業を組み立てることで、生徒にとって分かる授業、目標の明確化につながるものとする。目指す将来像を基に、生徒に授業で「めあて」を示し、生徒が「振り返り」、それをキャリアノートに残すことで、学習を積み重ねていきたい。また、「〇〇したからこうした」等、生徒自身が自分の言葉で理由を付け振り返ったり、授業の途中で評価をするなど形成的な評価をしたりするなど、学びが実感できるまとめを工夫し、生徒たちが気付いた工夫を次時に生かせるような評価の方法を考えていきたい。
- ・3年間を見通した積み重ねのある指導の在り方について目標設定や指導計画等を話し合ったが、各学年や学習グループの実態に応じて個々の学習内容のステップアップが必要であると感じた。将来の生活に必要な基礎的・基本的な力の育成が求められるため、他の指導の形態との関連付けをはっきりさせ、各教科等の指導内容を精選し、確かな学びにつなげていきたい。また、高等部につながる学習として、職業・家庭科の内容を取り入れていき、生活に生かせる具体的な学習内容に取り組んでいきたい。また、育てたい力の具現化に向けて、今後も教育効果の高い地域資源の選定と活用を図っていきたい。
- ・障害の多様化等に対応する取り組みとして、自立活動の充実が求められる。個々の自立活動の指導計画の作成においては、複数の教師による視点を取り入れ作成していく体制を取りたい。



## VI 高等部の実践

### 1 研究テーマ

社会生活に向け、経験を生かしながら考え、判断し、行動する姿を育む  
～職業科を中心とした実践を通して～

### 2 テーマ設定の理由

#### (1) 生徒の実態

就職も含めた将来の社会生活に対して大まかな希望や憧れを抱いている生徒がいるものの、自分の将来や進路に関する知識や経験が不足していること、自分で考えて表現すること、自分で目標に向かって行動したり、立ち直ったりすることが課題となっている。しかし、昨年度の学習において振り返りの活動や他者との話し合い活動を通して、経験を自分の言葉で表現したり、まとめたりすることで、自分に必要な力を具体的・現実的に捉えることや、自分の考えを整理し、判断・決定する姿が見られてきた。

#### (2) 高等部において育てたい力

キャリア教育の重点事項（高等部）【役割を果たす、自分らしく生きる、自己実現を果たす】は、「学校・家庭・地域社会において主体的に役割を果たそうとする生徒」、「集団の中で主体性を発揮し、行動しようとする生徒」、「経験を基に、主体的に選択・決定しようとする生徒」（要  
点抜粋）である。

在籍する生徒の実態と合わせ、高等部段階で育てたい力をより焦点化するために学部職員で検討した結果、「生活の中での経験を生かそうとしたり、自分の役割を果たそうとしたりする力」、「経験を通じて適切に自己や他者を理解する力」、「自分で考えたり、判断したりして、主体的に活動する力」が挙げられた。

#### (3) 今年度の研究

昨年度の研究では、目標に向かい、自分から発信し、行動する姿を目指し、指導目標や学習内容、指導方法の見直しを図りながら授業づくりを行ったことで、自分にとって必要な力に気づき、よりよい行動や必要な情報を選択・決定する姿につながる生徒の変容が見られた。その成果を踏まえ、2年次は、学年ごとに積み重ねのある指導内容、職業科の配置や時数、学び方に応じた学習形態を意識し編成を行っている。

そこで、今年度は、職業科を中心とした実践の中で、生徒が自ら思考、判断、行動していくための経験を積み重ねたり、そのための学習の場を意図的に設定したりする授業づくりを行う。また、授業づくりを積み重ねた成果を整理し、教育課程の評価・改善（主に積み重ねのある指導計画、指導内容）を行う。

授業づくりにおいては、生徒が社会生活の中で、経験を生かしながら考え、判断し、行動することができるよう、社会生活に関する具体的なイメージや希望をもつための場として、また、これまでの経験を生かして学習の成果を発揮したり、試したりする場として地域資源を活用していく。また、3年間を見通した指導計画の立案や指導内容の選定に生かしたり、生徒が学びを蓄積し、自らの成長を実感したりするためのツールとしてキャリアノートを活用する。

これらのことから、生徒が自ら望む社会生活に向け、経験を生かし考え、判断し、行動する姿を育みたいと考え、本テーマを設定した。

### 3 研究仮説

地域資源を活用して、生徒が社会生活に向けた経験を得たり、生かしたりするための授業づくりを積み重ねることで、生活の中で役割を果たそうと考えたり、判断したりして行動できるようになるだろう。

#### 4 研究の実際

##### (1) 教育課程の編成

- ①学部会において、今年度の教育課程について全職員で協議し、学部目標、重点事項、週時程の確認し、共有を図った。(4/1、4/5：学部会)
- ②学部研究会において、高等部のキャリア教育の重点の重点事項と生徒の実態を照らし合わせ、学年ごとのグループ協議を行うことで、高等部で育てたい力の検討と共有を図った。(5/11：学部研究会)
- ③年間指導計画と地域資源の関連の検討(学習グループごとに5月に実施：学部研究会)

##### (2) 教育課程の実施と授業づくり

###### ①授業研究会

実施時期	研究会の種別	学習グループ	主な改善案等
7月	ミニ授業研究会	1年 2年2グループ 3年未来グループ 3年笑顔グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導案の指導観の観点の統一</li> <li>・生徒が学習のめあてを理解できる工夫</li> <li>・指導内容の学部間でのすり合わせ</li> <li>・体験活動の設定等の生徒に適した学び方の工夫</li> </ul>
9月	全校授業研究会	2年1グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のゴール(まとめ)の提示</li> <li>・単元テストの導入による生徒の理解度の評価</li> </ul>
11月	公開研究会 (事前研究会を含む)	3年希望グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した事柄を生活に生かすための取組</li> <li>・生徒が学習の必要性を理解できる工夫</li> <li>・生活の質を高める指導内容や活動の工夫</li> <li>・生徒の思考にゆさぶりをかける教師の問い掛け</li> </ul>

###### ②単元構想会(7/27：2年1グループ、8/25、9/28：3年希望グループ)

授業研究会における提示授業について、授業改善C0、学部主事、研究主任を交えて単元について協議を行った。

###### ③授業づくり振り返りシートを活用した授業づくりの評価と反省、年間指導計画の確認及び修正(7月から実施：学部研究会を中心に)

学習グループごとに、前月の授業づくりについて授業づくり振り返りシートを活用し、指導計画や指導内容等の評価と改善を図った。

###### ④キャリアノートの活用及び修正

ア 1学期の活用状況について、学習グループごとに情報交換を行った。(8/31：学部研究会)

イ 実習の事前事後学習に関するページを作成し、学部共通のものとして活用した。(9/14：学部研究会)

###### ⑤学習会の実施(随時)：キャリア教育、合理的配慮、板書等

###### ⑥生徒の変容の評価

ア 個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し(随時)

イ キャリアノートのまとめによる評価(随時、単元ごと)

ウ 本人、家庭との面談による評価(8月、12月、2月)

##### (3) 教育課程の評価・改善

各学期の教育課程について、学部全職員で成果と課題を協議し、共有を図った。また次の学期や次年度に取り組むべきことを共有した。

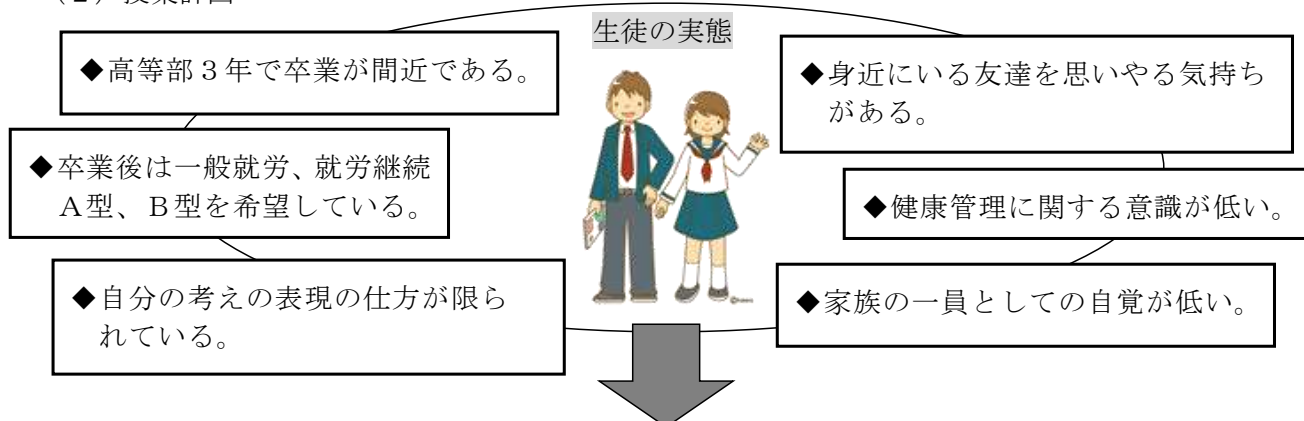
(7/15、7/22、8/22、12/2、12/8、1/11、2/14：学部会)



## 5 授業づくりの具体【高等部3年生職業科の実践】

(1) 単元名「イケてる社会人になるために④～知ってる？健康で楽しく生活するための方法～

(2) 授業計画



### 単元目標

- ①働くことを中心とした生活をするためには、健康的な家庭生活が基盤となることが分かる。
- ②家庭の基本的な機能や家族の役割を理解し、卒業後の家庭生活や自分の役割について考える。

### 単元観

- 本単元は、進路先に関係なく、社会の一員として充実した生活を送るために、社会人としての一般的な知識・技能及び態度を身に付けることを目的としている学習である。
- 本単元では、家庭生活を題材とすることで、卒業後における、学校から家庭及び進路先への生活の中心のスムーズな移行が期待できる。
- 上記のことを踏まえ、健康な状態で職場に継続的に勤めたり、時間を有効に使ったりすることが、働くことを中心とした生活をおくるための基盤となることが理解できるように、家庭生活の中でも、体力の保持、健康管理の方法、休日の適切な過ごし方等について知り、実践しようとする学習を設定する。

### 単元計画



小単元名	主なねらい	活動内容	時間
1 イケてる社会人アタック25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習や前期、後期実習を振り返り、働くことと生活との関係や生活する上で大事なことを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習や前期、後期実習で話題になったことについて、クイズの問題を考えたり、答えたりしながら友達と一緒に振り返る。</li> </ul>	4 時間
2 イケてる社会人になるための生活教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働いたり、生活を楽しんだりするには、健康的な家庭生活が土台になることを考える。</li> <li>・家庭の機能や家族の役割を考える。</li> <li>・家庭生活と地域との関わりを理解する。</li> <li>・健康管理の方法、時間の有効な使い方、家庭での自分の役割等を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や地元企業社員への「生活アンケート」の依頼と集計をする。</li> <li>・様々な生活場面の4コマ漫画にせりふを入れる学習をする。</li> <li>・教師や生徒によるロールプレイを行う。</li> </ul>	1 2 時間
3 イケてる社会人検定（生活編）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の生活を、健康で楽しく生活する方法について理解したか、確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人の生活について学んだことを確かめる検定試験を受ける。</li> </ul>	2 時間
4 横手支援就活掲示板の作成～健康で楽しく生活するための方法～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後に、健康で楽しく生活するための方法が何かわかり、内容を友達や後輩に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人としての社会生活や家庭生活について学んだことをまとめて、掲示板公示。</li> </ul>	4 時間

(3) 授業づくりと授業改善

①単元構想会による授業づくり（7月）

検討事項及び内容		授業づくりの方向性
年間指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業間近な生徒にとって、生活習慣やマナーを確認する学習は、繰り返しの学習にならないか。また、定期的に妥当かどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が体験した実習と関連付けながら、現実的に学習を進めることを考えると、卒業間近で卒業後の生活のイメージが浮かびやすい時期だからこそ、学習効果があると考ええる。</li> </ul>
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害の特性や「職業」に関する学びの積み上げ等の状況から、実態に合った目標設定であるか。どのような評価になるか。</li> <li>断片的にスキルを「知る」学習なのか、実践する力を付ける学習なのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を通して、何が分かったのか、何を考えたのか生徒自身が理解できるように、目標をシンプルにする。</li> <li>実践する力を身に付けたいが、職業の時数の中では難しい。「知る」学習ではあるが、断片的ではなく、これまでの学習や実習と関連付けて学習を進める。</li> <li>地域の企業からの協力を得て、社会生活をする上で大切なことについて、実際に働いている方からの声を教材とする。</li> </ul>
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が学習する内容を生徒が理解するための手立ては適切か。</li> <li>様々な実態に応じた学習スタイルか。</li> <li>50分の時間内で展開できる内容か。</li> <li>教材・教具が適切か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考える教材として4コマ漫画を活用する。</li> <li>書いたり、読んだりすることが苦手な生徒の活動の展開の仕方を工夫する。</li> <li>導入を短くして、まとめの時間を十分とれるようにする。</li> <li>授業後に、学んだことを生かすための効果的な教材を作成する。ただし、精選する。</li> </ul>
まとめの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いたり、読んだりすることが苦手な生徒のためのまとめの活動の展開の仕方はどうなるのか。</li> <li>分かったことを表現するための手立ては適切か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントに学習内容をまとめる方法は実施せず、書くことに時間をかけない方法を考える。</li> <li>生徒一人一人の「分かっている」状態を把握し、自分の考えを表現できる方法を考える。</li> </ul>

②授業づくり振り返りシートによる授業改善（8月）

●生徒の姿や思い 	■考えられる原因 @：授業づくり振り返りシートの評価項目	☆改善点 
<ul style="list-style-type: none"> <li>●今、自分にはどんな力がどれくらい身に付いているのかな？</li> <li>●何のために学習してるんだろう？</li> </ul>	<p>@単元構想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒自身が、単元における自分の学習の習熟度を把握していない。</li> <li>■生徒が学習している目的を理解していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆視覚的に学習の進み具合が分かる単元計画表を作成し提示する。</li> <li>☆小単元毎に、学習した内容をまとめたもの（就活掲示板）を作成し、再確認する時間を設ける。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●何の学習してるんだ？分からない。つまらない。（授業中、ぼんやり）</li> </ul>	<p>@授業構想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■学習内容にイメージや興味をもちにくい。</li> <li>■現実味のない話が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆学習の内容に期待感をもつことができるように、工夫した単元名を設定する。</li> <li>☆自分のこととして学習できるように、生徒自身の実習の評価や地元企業の実際に働いている方の話を活用する。</li> </ul>



<p>●今日の授業で学ぶことは何？ (授業の終わりに、分かった、という実感がない)</p>	<p>@支援の方法          ■学習のめあてや内容が分からない。          ■生徒自身のめあてと教師側のめあてが一致していない。</p>	<p>☆導入の段階で、「めあて」から「まとめ」までの学習の流れや、まとめの仕方を提示する。          ☆学習の流れを板書で視覚化する。          ☆導入で学習のテーマを提示し、これから学習する内容やめあてについて、自分で考える時間を設ける。</p>
<p>●読んだり、書いたりするのが苦手なんだけどな。          ●他の友達は、どんな考えがあるのかな。          ●今日の授業で、学んだことは何だったかな？</p>	<p>@学習活動          ■生徒の認知特性が把握しきれていない。          ■生徒同士のやりとりの場を設けていない。          ■まとめの時間が充分確保されていない。          ■本時の学びを実感できる工夫がされていない。</p>	<p>☆4コマ漫画を教材とし、書くことよりも考える学習を中心とする。          ☆考えを共有したり、認めたりする場を設ける。          ☆教師からの説明や指示を簡略化し、導入の時間を短くする。          ☆学びの積み重ねを今後に生かせるように、チェック帳を活用する。</p>

③事前研究会による授業改善（11月）

検討事項	☆改善点
導入の工夫	☆前時までの学習内容をヒントに、本時のねらいを端的に確認し、まとめの時間を十分にとれるようにした。
家庭と連携した学習	☆チェック帳を家庭に持ち帰り、保護者が学習内容を確認できるようにする。 ☆冬休みに、学んだことを家庭でも実践し、保護者に確認してもらおう。実践した内容を次の単元につなげる。
学習内容の精選	☆家庭生活について、生徒が考える内容をしぼり、まとめで他の友達の考えに共感したり、意見をアドバイスしたりする時間が十分とれるようにする。

(4) 本單元における成果と課題（生徒の変容）

- 健康でいる状態が、一般的な場合と自分の場合、どんな状態か分かり、働くためには、健康的に過ごす必要があることを理解することができた。
- 卒業後の生活について、自分のこととして考えることができるようになり、家庭においても自分の役割を果たして、家族の一員として生活していこうという気持ちをもつことができた。
- 社会人になることを意識し始めたことで、保護者から言われなくても、自分から家庭での役割を探して、実践できるようになった。
- 自分のことだけではなく、家族や地域に住む人のことに目を向け、相手の気持ちを考えることができるようになってきた。
- △生徒自身が学んだ事柄について、卒業後、どのように蓄積及び発展させていけばよいか。
- △職業の中で、生徒本人、家庭、学校の希望を共通理解しながら進めるための年間指導計画や学習内容はどうか。

## 6 学部の実践の成果と課題

### (1) 成果

- ・地域資源を学習の目標を達成する手立てとして活用することで、生徒の学習に現実味を付加することができた。「役割を果たす」という視点では、事業所での実習や職場見学等を通して、学生と社会人の役割や生活の違いに気付いた生徒や、周囲の人々のために活動することを通して、自らの役割を果たすことにやりがいを感じ、活動への意欲を高めることができた生徒が現れるなどの変容があった。
- ・「自分らしく生きる」という視点については、実習先の事業所からの評価票等による外部評価と、自らの実習先での経験を関連付け、自分のよさや職業適性の理解につなげることができた。また、学習グループ内で意見交換等を積み重ねることで、自分を肯定的に理解するとともに、友達にアドバイスを求めようとするなど互いに尊重しようとする姿も現れてきている。
- ・地域資源を活用した学習の中で、「自己実現を果たす」ことに向け、自分が実際に働いたり、見聞きしたりしたことから将来の生活に対して憧れを抱き、将来に向けた具体的な目標設定や言動の変化が現れるようになってきた。また、自己実現に向け、現在の自分の希望や課題を把握し、将来へのイメージを少しずつもつことができるようになってきた。

### (2) 課題

- ・職業科の授業づくりを進める中で、将来の職業生活及び社会生活を充実したものとするために、基盤となる家庭生活を確立する必要性が感じられた。学習指導要領に記載があるように、職業科の授業において、生徒の実態や希望する生活などに応じて、高等部の家庭科及び中学部の職業・家庭科や小学部生活科の内容を学習し、「役割を果たす」という視点から家庭生活や家族の役割等に関する学びを般化できるようにしたい。
- ・学習内容のステップアップを考えたい。例えば、「職場見学」を取り上げる場合、同じ題材であっても1年生と3年生では目標などが異なってくるのが想定される。3年間における職業科の学習をより深めるためにも、学年進行に応じて、学習内容の発展が必要であろう。それにに応じて学部内の基準も必要になると考える。目標や学習内容に加え、学習の時期や時数なども学部内で検討したい。また、キャリアノートの内容の配列等も検討したい。
- ・主体的に役割を果たしたり、選択・決定したりすることで、社会生活に主体的に参加しようとする態度を育成したい。そのために、来年度も地域資源を効果的に活用して、実体験等を通して社会生活において役割を果たしたり、様々な人や機関等と関わったりする学習を計画的に展開して、自分の経験を基に、主体的に選択や決定する力を高めたい。





企業からの受注製品の納品を継続的に実施し、企業の方の生の声を聞く機会も設け、社会生活を送る上で健康的な生活を送る大切さや、そのために自分が今後の生活で行うことを決めました。

【公開研究会：3年生の実践より】

自分たちで考えたことを基に、障害者職業センターの方による職業ガイダンスを利用し、働く上で大切な力を確かめ、今後のなりたい姿を具体的に考えました。

【全校授業研究会：2年生の実践より】



## 高等部



友達の居住地のよさを発見するため、体験活動を行いました。分かったことをマップとしてまとめ、発表することで、友達のよさにも気付きました。【公開研究会：1年生の実践より】

昨年度の学習の発展として近隣保育園児を喜ばせるために読み聞かせを行いました。計画・準備・実践の中で友達のよさも発見しました。【全校授業研究会：3年2組の実践より】



## 中学部



読み聞かせの会の方の読み聞かせや図書館利用等をきっかけに、友達のために「げーむや」を計画・準備しました  
【全校授業研究会：4年生の実践より】

友達の居住地のよいところを体験し、その感想や思いを友達へ紹介し、そして共有しました。

【公開研究会：  
5年生の実践より】



## 小学部

---

# 成果と課題

---



## I 成果と課題

### 1 ライフキャリアの視点に関わる児童生徒の変容

キャリア教育全体計画の下、一人一人の育てたい力を明確にし、地域資源の効果的な活用を吟味しながら授業づくりに取り組んできた。そのことで、以下のような変容が見られた。

- 学習集団の中で、それぞれの役割を設定したり、自分たちで決めたりすることで、学習に消極的な児童生徒が期待感や意欲をもって主体的に行動した。また、役割を果たすことで児童生徒同士が認め合ったり、折り合いをつけたりする様子が確認できた。
- 係活動や仕事の役割分担等だけでなく、集団や対人関係の中における役割である「話を聞く」「相手に話をする」などの学習ルールの習得が促された。
- 学校での役割から徐々に家庭や地域での役割にも目を向けられる児童生徒が見られた。
- 学習の中で、目的やその対象等を明確にすることで、学習を自分のこととして学んだり、目的をもって学校生活を送ったりした。
- 目的意識をもって学習に向かい、まとめの段階で自己評価や他者評価を行うことで、自らの思考をさらに深めたり、学びを実感したり、次の課題に目を向けたりした。

これらの変容は、役割を果たすことに着目しながら、授業実践を積み重ねてきたことで、自分の役割に気付いたり、自ら役割を果たしたりする姿に付随して、自分らしさに気付いたり、発揮したり、自分のなりたい姿をもち、その姿に向かって活動する姿に結び付く変容も確認できたことと捉える。つまり、社会的自立に向け一人一人の学習や生活への向き合い方の変容が見取れたと捉えることができる。

### 2 教育課程と授業づくりの改善

2か年の研究を通して、以下の点について教育課程と授業づくりの改善が見られる。

- 学校教育目標や指導の重点、他の指導の形態との関連性のある指導計画が作成できた。
- キャリア教育全体計画を基盤として児童生徒の育てたい力を明確にし、系統性や発展性のある指導計画が実現してきた。
- 単元構想において、学習の目的（「なぜ」「なんのために」）が明確にされ、育てたい力を達成するために地域資源を効果的に活用する授業づくりができてきた。
- 学びを積み重ねることを目指し、児童生徒に分かりやすくめあてを提示したり、単元や授業の目標を達成するための学習活動を設定したり、授業を振り返るためのまとめの時間が確保されていたりと授業スタイルが確立してきた。
- 評価の視点を絞った教育課程の定期的な評価・改善が行われた。また、一年次の課題より次年度教育課程の編成時期の見直しを図ることができた。

### 3 今後の課題

今後の課題は以下のとおりである。

- 家庭生活や地域生活を意識した学習内容（進路指導）の実施や家庭・地域との連携を早期から段階的・継続的に実施する。
- 児童生徒一人一人の社会的自立に向け、ライフキャリアの視点を個別の支援計画や個別の指導計画に具体的に反映させていく。
- 授業の目標と整合性のとれたまとめ（学びが実感できるまとめ）の仕方について、継続的に検討・実施していくとともに、自立活動の視点も意識した授業づくりをしていく。

## II 研究のまとめ

### 1 学校評価と職員の意識の向上

2か年の研究を通して、本校に在籍する児童生徒の障害の重度・重複化、多様化に対応した教育課程を編成することを目指し、1年目は、教育課程の評価・改善の枠組みや授業づくりのツールの作成を行った。2年目は、教育課程の枠組みやツールを活用した授業実践を積み重ね教育課程を編成・実施・評価・改善してきた。そのことから、今年度の学校評価では、以下のような結果となった。【割合は、4段階評価の「よい」「概ねよい」の合計】

	評価項目	前期評価	後期評価
教師	・キャリア教育全体計画・指導内容の学部間の系統性と関連性が分かる年間指導計画の作成	87%	95%
	・学校教育目標と教育課程の整合性の確認とPDCAサイクルによる定期的な見直し	97%	94%
	・ライフキャリアの視点による授業づくりと授業改善	98%	97%
保護者	・将来の社会参加に結びつく地域との関わりがある教育課程	100%	

前述の「授業づくり振り返りシート」の結果からも児童生徒の変容を基にした教師の手応えの表れと学校運営への参画と教育課程の実施意識の向上が読み取ることができる。また、保護者からも現在の教育課程への評価を得られたこととなる。キャリア教育全体計画によって学校として、一人一人のキャリア発達を考える指標をもち授業づくりに取り組んだことで、多様化に対応した教育課程に向けて前進したと考える。次年度もライフキャリアの視点を生かしながら教育課程の編成や授業づくりを組織的・継続的に実践していきたい。

### 2 次期学習指導要領を見据えて

本研究では、「学部目標や「育てたい力」の系統性や発展性が見えるキャリア教育全体計画に基づいた授業づくり」「指導の形態同士の関連性を明確にした指導計画の作成」「学びを積み重ねることを意識し授業の目標とまとめ（評価）が保障された授業スタイル」「評価の視点を明確にした定期的な教育課程の評価・改善」等の取組を行ってきた。これらの取組には、まだ課題があるものの、児童生徒の変容を見定めながら取組を整理し、積み重ねていくことで次期学習指導要領の内容に結びついていくとともに、この積み重ねが児童生徒の社会的自立につながる力を育てていくものとする。

#### 《参考文献》

- 文部科学省（2009）特別支援学校学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）
- 文部科学省（2009）特別支援学校学習指導要領解説総則編（高等部）
- 文部科学省（2011）小学校キャリア教育の手引き（改）
- 文部科学省（2011）中学校キャリア教育の手引き
- 文部科学省（2011）高等学校キャリア教育の手引き
- 秋田県教育委員会（2015）平成27年度学校教育の指針
- 秋田県教育委員会（2016）平成28年度学校教育の指針
- 秋田県教育庁南教育事務所（2015）平成27年度南の要覧
- 秋田県教育庁南教育事務所（2016）平成28年度南の要覧
- 中央教育審議会（2011）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）

---

# 資料

---

学校教育目標

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加をめざして努力する児童生徒を育成する

めざす児童生徒像

- ①**明るく** 健康で 心豊かな明るい児童生徒
- ②**仲良く** 協調性に富み 社会性豊かな児童生徒
- ③**元気よく** 自ら意欲をもって働く児童生徒

めざす学校像

- ・安心・安全で笑顔あふれる学校
- ・地域に理解され 信頼される学校
- ・県南地区の特別支援教育を推進する学校

学部の経営目標

	小学部	中学部	高等部
①	・基本的な生活習慣を確立し、進んで体力づくりに取り組もうとする態度を育てる。	・健康で丈夫な体をつくり、明るく元気に生活しようとする態度を育てる。	・自ら健康の保持・増進、体力の向上に努め、たくましく、思いやりの心もち、望ましい人間関係を築こうとする態度を育てる。
②	・友達や身近な人や地域の人と仲良く学習したり、集団活動したりする気持ちを育てる。	・友達を大切にし、助け合って共に向上しようとする気持ちを育てる。	・高等部生徒としての責任感と自覚をもち、互いに尊重し合い、他者を思いやり、協力して活動する気持ちを育てる。
③	・周囲の物事や課題に、興味・関心をもち、自分の目標に向かってがんばる態度を育てる。	・学校・家庭・地域社会において自分の役割が分かり、活動に力一杯取り組もうとする意欲と態度を育てる。	・働くことの意義と、学校・家庭・地域社会において果たすべき役割を理解し、実生活の中で実行しようとする意欲と態度を育てる。

横手支援学校 キャリア教育の目標

児童生徒が生涯にわたり、役割を果たしながら生きていくために必要となる資質や能力の習得を通して、**地域**で自分らしく生き、自己実現を果たそうとする意欲や態度、価値観を育む。



学部のキャリア教育の重点

	小学部	中学部	高等部
役割を果たす	・係活動や当番活動、お手伝いなどの役割を果たし、周囲の人や地域の役に立つ喜びを感じる児童の育成。	・学校・家庭・地域社会において、自分の役割を理解し、継続的に取り組む生徒の育成。	・学校・家庭・地域社会において自他が果たす役割の必要性と意義を理解し、主体的に役割を果たそうとする生徒の育成。
自分の生きがいを育む	・自分の好きなこと（人、物、遊び、活動）を見付け進んで取り組む児童の育成。	・自分のよさを認め、個性を伸ばし集団生活できる生徒の育成。	・自分、そして、相手のよさを認め、折り合いをつけながら、集団の中で主体性を発揮し、行動しようとする生徒の育成。
自分らしい生き方を育む	・自分でやろうと決めたことを最後までやり遂げようとする児童の育成。	・自分で決めた目標に向かって、自分で課題を解決しようとする生徒の育成。	・知識と体験を結び付け学んだことを基に、卒業後の生活や仕事について、主体的に選択・決定するための知識や技能、態度を身に付けようとする生徒の育成。

キャリア教育推進の基盤

専門性の向上	保護者との連携	地域との連携	関係機関との連携	啓発活動
・発達の段階に応じた指導内容の検証 ・キャリア教育の視点を踏まえた授業実践・改善 ・ICT活用の促進	・個別の指導計画、個別の支援計画に関する個別面談 ・連絡帳での情報共有 ・進路研修会等の開催	・地域の教育資源を活用した教育活動（居住地校交流、学校間交流、地域貢献活動等）	・療育、教育機関、障害者支援施設、理解協力事業所等との情報交換 ・卒業後支援の実施	・学校HP、学校展の活性化 ・進路指導部通信の発行 ・PTA研修会の実施 ・来てたんせウイークの実施

キャリア教育推進に関わる各分掌部の役割（校内組織づくり）

総務部	・保護者との連携、PTA研修視察等の実施 ・学校報の発行	進路指導部	・進路指導部通信の発行や研修会の実施等による情報提供 ・外部関係機関との連携、情報交換による進路指導・支援
教務部	・教育課程の編成と評価・改善 ・学部・学級経営案の作成 ・個別の指導計画（個別の支援計画）等の作成 ・交流活動の渉外等 ・図書・読書活動の推進	保健体育部	・保健、体育、安全、給食に配慮した学習等の計画、実施
		情報教育部	・学校ホームページの更新 ・ICT活用の推進 ・学校展の開催
研究部	・ライフキャリアの視点による授業実践と授業改善 ・授業研究会、職員研修会の計画、実施	支援部	・校内外の教育相談及び支援 ・特別支援教育の教育活動の広報活動 ・特別支援教育に関わる物的及び人的資源の提供
			生徒指導部





H27～28年度研究主題

ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成  
～地域資源を活用した授業づくりを通して～

# 横手支援学校

## 授業づくりの基礎・基本

### 【横手のスタンダード】

児童生徒と教師が共に成長するために…

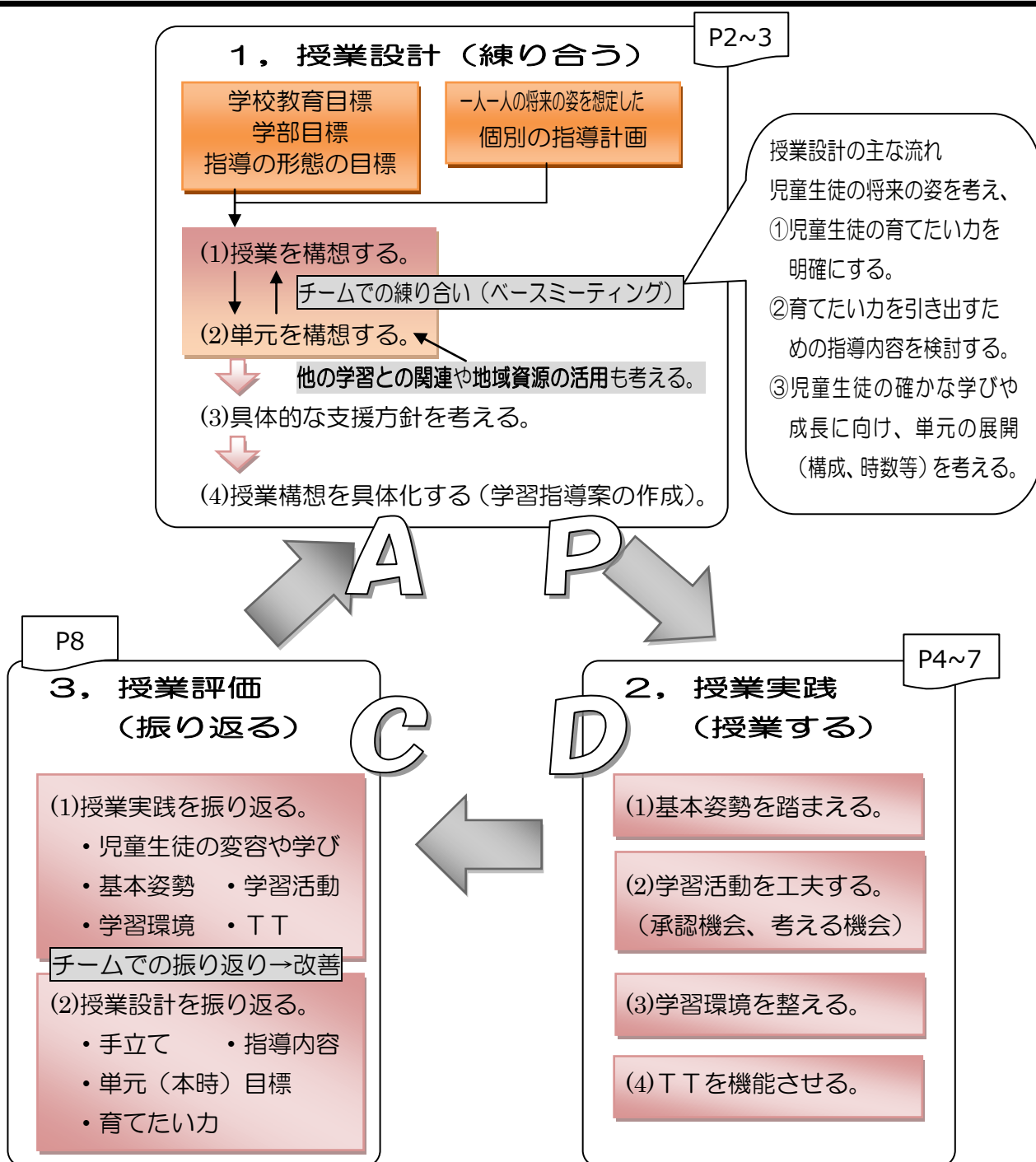


秋田県立横手支援学校

# 横手のスタンダード

☆この冊子には、①横手支援学校として、授業づくりにおいて大切にしたい点  
②チームによる授業づくりを進めるヒント が書かれています。

◆単元スパンで「練り合う」→「授業する」→「振り返る」ことを基本とし、  
チームによる授業づくりを大切にしましょう。



# 1 「練り合う」のスタンダード

授業改善COを活用！

## － ベースミーティングをしよう（授業者以外の教師も交えると効果的！）－

### (1) 授業を構想する。

- ① 児童生徒の実態把握をする（「過去」→「現在」→「将来」の時間軸を意識して把握する）。
  - ・興味・関心、認知特性、対人関係スキル、社会性スキル、学習経験、既習事項等
  - ・本人や保護者の希望、家庭や地域での生活の様子等
  - ・今できていることや想定される将来の生活、社会的自立に向けて身に付けておきたい力  
〔個別の支援計画、個別の指導計画〕
- ② 学校教育目標や学部の指導の重点、学習指導要領（各教科等における指導内容）を確認する。

◆学校教育目標◆  
一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加をめざして努力する児童生徒の育成  
☆めざす児童生徒像☆  
健康で、心豊かな明るい児童生徒 協調性に富み、社会性豊かな児童生徒 自ら意欲をもって働く児童生徒

- ③ 横手支援学校キャリア教育全体計画と、その指導の重点を確認する。
- ④ ①、②、③をすりあわせ、単元や授業で育みたい力、目指したい児童生徒の姿を明確にする。

「できる」「できない」という視点よりも「育てる」という視点を大切に！

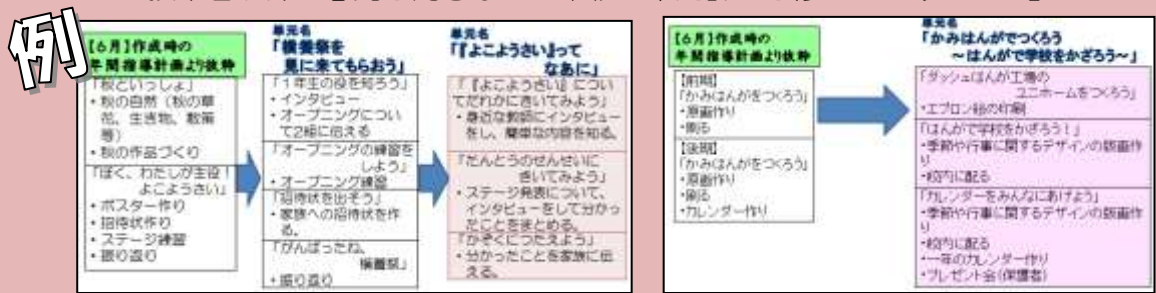
### (2) 単元を構想する。

- ① 目指したい児童生徒の姿を引き出す指導内容（中心課題）を検討する。
- ② 児童生徒にとって分かりやすい流れを組む（指導内容を組織化）。
  - ・単元のクライマックス\*1を検討する。
  - ・単元の時数を検討する。
- ③ 他の単元や指導の形態との関連も検討する（年間指導計画）。
- ④ 生活に結び付いたより具体的・実証的な学習活動を検討する（地域資源の活用）。

\*1  
児童生徒が単元のゴールとしてイメージし、最も盛り上がる学習内容を含んだもの。

児童生徒にとって、本単元の学習の意味や価値が感じられるように…

「授業者以外の意見を聞きながら柔軟に単元計画を修正してみよう！」



自閉的傾向を有する児童在籍学級の生活単元学習の修正例。  
分かりやすく、見通しをもって学習に取り組めるように繰り返しの学習を設定している。

## － 授業プランをたてよう－

### (3) 具体的な指導内容・支援方法を考える。〔ベースミーティングを踏まえて〕

- ① 児童生徒の思いや願い、興味・関心に基づいた単元となっている。
- ② 単元を通して育てたい力が明確になっている。
  - ・簡潔に本単元のねらいが話せる。

➡ 指導の形態の、**単元**において、**学習活動**を通して、**～の力や児童生徒の姿**を育てる。  
また、～の力は、**将来の〇〇**につながる等。

- ③ 学校教育目標、学部の指導の重点、学習指導要領の内容を具現化したものとなっている。
- ④ ライフキャリアの視点「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」を意識したものとなっている。

### 授業の中で大切にしたいポイント

#### ★学習の意味付け、価値付け、関連付け【ライフキャリアの視点：役割を果たす】

- ・児童生徒が**学習の必要性**を感じられる工夫がある。
- ・児童生徒が**学習のゴールや学習と将来との結び付き**を意識できる工夫がある。
- ・児童生徒が学習中に**学習のめあてを意識**できる工夫がある。
- ・少し難しく、**挑戦したい**と思える課題が設定されている。
- ・学習のめあてとまとめのつながりが見える工夫がある。

#### ★承認機会【ライフキャリアの視点：自分らしく生きる】

- ・児童生徒が自分や周りを認める及び認められる**機会**が設定されている。

#### ★考える機会【ライフキャリアの視点：自己実現を果たす】

- ・学習のめあてやまとめ、学習活動中に、児童生徒の**考える機会**が保障されている。
- ・児童生徒が考えたことを**表出する機会**が保障されている。

### (4) 学習指導案を作る。

学習指導案・略案を作成する。

- ・育てたい力、
- ・単元（本時）の目標
- ・指導内容
- ・手立て等 を簡潔に記す。

## 2 「授業する」のスタンダード

### — 授業の前に ～日々の教育活動から行っておきたいこと！ —

#### 学習のルールづくり

#### 学びの構えづくり

・学習グループのみんなが気持ちよく**学習するためのルール**などは、全員（個別）で確認する機会を設けたり、視覚的に提示したりする。また、発達年齢に応じて児童生徒が話し合いの中で決めるなど、日々の教育活動の中で適宜行う。

・**人の話に注意を向ける（注意を継続する）**ことは、豊かな学びを支える一つの要素であり、社会的自立に向け大事な力といえます。学びの構えづくりとして、児童生徒が「学習が始まる」ことや「誰かが話をす

ることが分かり、自分の気持ちを調整していくための工夫を普段から行うことが大切です。

\*発達の段階に応じてですが、まずは「何か楽しそうなことが始まるぞ（ワクワク）」という期待感から・・・

### — 授業実践 —

#### (1) 基本姿勢を踏まえる。

- ① 健康・体調、安全や衛生面への配慮
- ② 明るく、落ち着いた雰囲気づくり
- ③ 児童生徒の反応や発信への気付きと受け止め
- ④ 子どもの気持ちや思考への寄り添い
- ⑤ 場に適した言葉遣いや態度

承認の機会につながります

### 児童生徒との関わり方の基本

#### 児童生徒に伝わりやすい話し方

- ・目線を合わせて話す
- ・明るい表情、元気な声で話す
- ・一文で1つの指示を話す
- ・具体物を示しながら話す  
（「あれ」「それ」「あちら」×）
- ・一問一答にならないように話す
- ・児童生徒の理解の程度を確認しながら話す
- ・ユーモアも入れて話す
- ・意図や内容を明確にして話す



#### 児童生徒に寄り添った話の聴き方

- ・表情をよく見て聴く
- ・受容的な雰囲気聴く
- ・話を最後まで聴く
- ・児童生徒の意見をつなぎながら聴く
- ・児童生徒の理解の程度を確かめながら聴く
- ・児童生徒の話を楽しみながら聴く
- ・あいづちをうちながら聴く





**(2) 学習活動を工夫する。**

- ① 導入：本時の意欲喚起、学習への見通し
- ② 展開：活動量の確保、めあてを達成するための活動
- ③ 終末：学びの実感（達成感）、次の学習への意欲喚起



H27 南の要覧より

**【児童生徒の学び合いと高め合うためのポイント】**

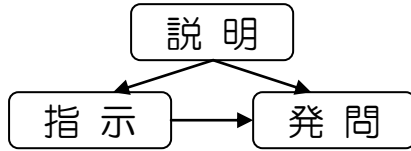


「個の学び」で終わらずに、「個の学び」を「集団の学び」につなげたり、共有したりできる工夫をする。

H28 学校教育の指針より

★考える機会の保障★

教師の言語的関わり（「説明」「指示」「発問」）を意図的に用い、児童生徒の考える機会を保障する。



・授業の中で、説明から指示・発問、説明から指示、そして発問など、意図的に用いる。

★承認機会の保障★

教師の言語掛けや雰囲気づくり、活動内容により、自分や友達を認める機会や自分が認められている実感を味わう機会を保障する。

役割を果たすことで認められる

人として認められる

・人として認められることを土台としながら、自分が周りに働き掛ける（役割を果たす）ことで、周りに影響を与えたり、喜ばれたりすることを実感できる機会を意図的に設定する。

(3) 学習環境を整える（構造化）。

① 「空間」の構造化

- ・児童生徒と教師の動線
- ・座席や道具の配置
- ・感覚刺激に配慮した掲示物

例



「歩く場所」が分かる



順番が分かる

② 「時間」の構造化

- ・「始め」と「終わり」の時間
- ・活動の順番



活動の手順が分かる



終了時間が分かる

③ 「活動」の構造化

- ・単元全体の計画
- ・学習の流れ「何を」「どの順番」「どれだけ？」

④ 「方法」の構造化

- ・活動の手順（マニュアル）
- ・完成品の提示



単元の流れ（学習の軌跡）が分かる

**(4) TTを機能させる。**

- ① 適正数及び役割分担が明確
- ② 意図のある立ち位置

TTで協力して子どもたちの  
学びや変容を見取ろう！！

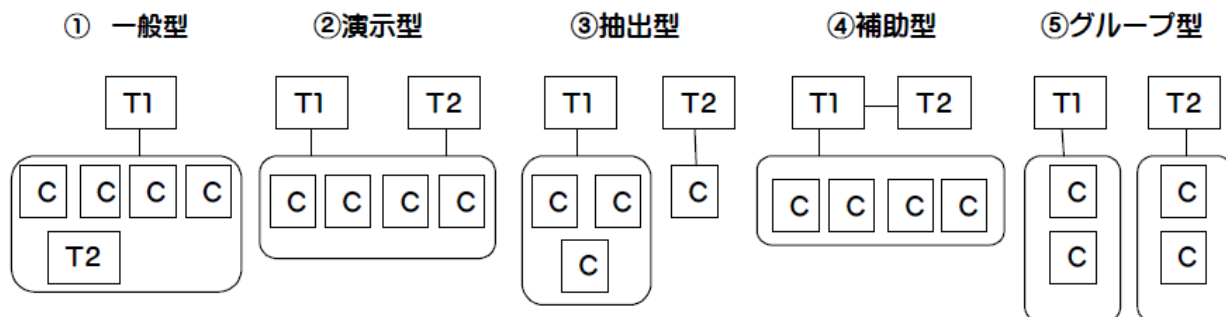


座席配置の工夫（コの字型）  
と教師の立ち位置

チームティーチング（TT）では、複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導にあたります。単に同じ場所に複数の教員が配置されているというわけではありません。特別支援学校ではほとんどの授業がTT方式による指導ですので、授業を行う際には、どの形式で、誰が、どのような働きかけをするのかなど役割分担をしっかりと確認しておきましょう。

◇TT方式の形式パターン例

T:教師 C:児童生徒



### 3 「振り返る」のスタンダード

#### (1) 授業実践を振り返る。

①児童生徒の変容や学びの姿を振り返る。

- ・児童生徒一人一人の引き出した姿が見られたか。学習中の表情や行動、言動など、授業中に見られた様子を出し合う。

\*意見を出し合う際には、付箋紙やホワイトボードを使い可視化する。

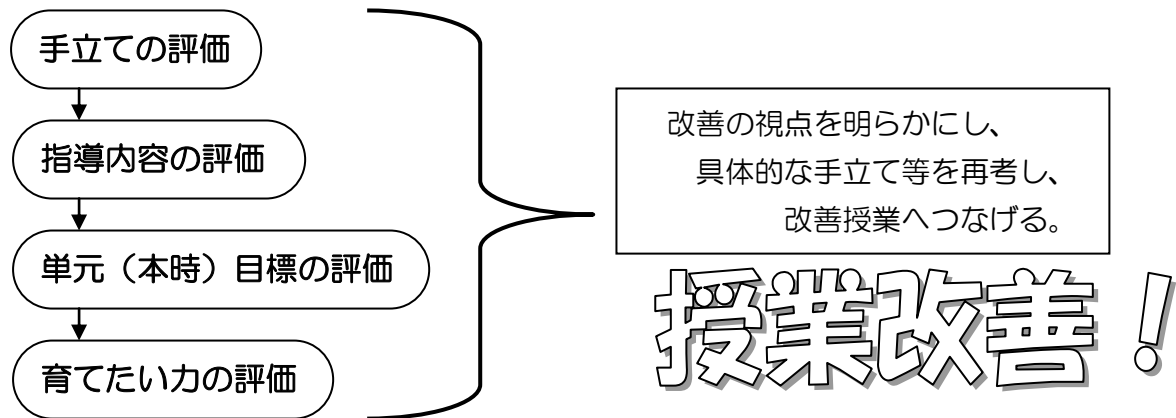
- ・本時や単元の目標が達成されたかどうかを述べ合う。

②基本姿勢、学習活動、学習環境、TTについて振り返る。

- ・授業づくり振り返りシートを活用する。\*[資料3](#)
- ・特別支援教育のミニマムスタンダードのB授業実践チェックリストを活用する。

#### (2) 授業設計を振り返る。

◆児童生徒の変容や学びを引き出すことができたかどうかとともに、以下の点についても評価し、課題があれば修正する。



◆全校授業研究会では、「ワークショップ型協議会+全体協議」を通して改善の視点を明らかにする。

ミニ授業研では、参観者による授業参観シートと指導助言を基にして改善の視点を明らかにする。  
授業者はそれを基に手立て等を再考する。

◆単元終了後に年間指導計画等へ立ち返り、次単元での授業づくりに生かす（「練り合い」へ）。

〈参考文献等〉

- ・秋田県立横手養護学校：「研究紀要第33集」
- ・特別支援教育課 総合教育センター：「特別支援教育のミニマムスタンダード」
- ・武田篤：「特別支援学校における授業づくりの新しい視点」～仲間と共につくる授業～
- ・干川隆：「特別支援教育のチームアプローチ ポラリスをさがせ」
- ・平成24年度 全校授業研究会等の指導助言、記録から
- ・平成27年度 南の要覧
- ・平成28年度 学校教育の指針



# ◆授業づくりの基礎固め◆(付録)

## ①「キャリア教育」って何？

「キャリア教育」とは

一人一人の

社会的自立  
職業的自立

に向けて

必要な 基盤となる能力や態度 を育てること

を通して！

**キャリア発達** を促す教育

キャリア発達とは、「社会の中で役割を果たすことを通して自分らしく生きる過程」と定義される。

### 【キャリア教育を解釈する上での留意事項】

#### ①「社会的」

- ・職業的自立のみを目指したものでなく、より広義の自立を目指したものであること。

#### ②「必要な基盤となる」

- ・能力や態度とは、就労に向けた特定の領域を示すものでなく、社会的自立のための基盤・土台となる能力や態度を意味すること。

#### ③「能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す」

- ・キャリアプランニングマトリクスで示される「4領域8能力」やキャリア答申で示された「基礎的・汎用的能力」等の育成そのものを意味するものではないということ。

## つまり！

キャリア教育とは、上に例示されている能力や態度の育成を通して、キャリア発達を促すことであり、我々は皆、社会との関係性の中で生活することを踏まえると、

児童生徒本人が経験する様々な物事との向き合い方に変化を促す教育である。

(意欲や態度、価値観)

例)

やってみたい・挑戦しよう

今やっている勉強は将来に向けて意味があるんだ。

〇〇になりたいな

できるかも…

真剣に聞いてみよう

うまくいかないときもあるさ  
また、明日がんばろう

興味がある

難しそうだけど、やってみようかな



参考：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）平成23年中央教育審議会  
引用：平成27年度 横手養護学校研究部報No.3

## キャリア発達を促すための

# ② 「言語環境の整備と言語活動の充実」って何？

前項でキャリア教育とは、「児童生徒本人が経験する様々な物事との向き合い方に変化を促す教育」とあるように、様々な物事との向き合い方は、他者に強要されるものではなく、児童生徒本人が自分で考え、判断し、納得していくことが大切です。

学習指導要領解説\*の中には、「児童生徒が主体的に考えたり、判断したり、表現したりする力を育むためには、…言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で言語環境と整え、児童又は生徒の言語活動を充実すること。」とある。言語は、思考すること、他者とコミュニケーションをとることに加え、行動をコントロールすることにも用いられます。

キャリア発達を効果的に促すために、言語環境の整備と言語活動の充実を意識していきましょう。

\*学習指導要領解説総則編（幼稚部、小学部、中学部）P189

では、本校においては「言語環境の整備と言語活動の充実」とは、どんなことでしょうか？



**特色の柱：**本校の特色の一つである読書週間や読み聞かせ会。本に親しむという側面からも意義ある取組です。全校体制で定期的・継続的に実施されており、他学部の生徒が読み聞かせをする他学部交流の機会ともなっています。

**授業実践：**学習めあての視覚化や学習のまとめの言語化（児童生徒の内面の読み取り）、言語を用いた学習活動や学習中に用いる言葉の精選、内言語レベルでの子どもの気持ちの代弁や気持ちを表出するための工夫など、授業の中で言語に関わる様々なしかけが可能です。

**学校生活：**教師の話し言葉は元より、板書や掲示物などの視覚情報（色、レイアウトも含む）の精選や工夫、放送等の聴覚情報の言葉遣いや内容等の精選や工夫が大切です。また、儀式等での情報支援もこれにあたります。

**地域資源：**校内資源だけでは、具体的・実地的な学習の展開に限界があります。より充実した言語環境と言語活動に向けて、活用できる地域資源は多々あります。また、家庭との連携も子どもの社会的自立に向けては大切な要素と言えます。



## ◆「言語環境の整備と言語活動の充実」と密接な関係にある「ことば」の指導について◆

### ◎ことばの指導の意義◎

児童生徒にとっては…ことばは考える力であり、行動をコントロールし、人とのやり取りをする手段となり、ことばを獲得することは、社会的自立に向けての必要な力の一つということができる。

教師にとっては……ことばの指導は、子どもの実態を把握し、様々な手段を活用しながら、伝えたいという気持ちや伝わったという経験を積み重ねていくことが大切であり、コミュニケーションは双方向のやり取りが重要となる。指導には、受け手の感性も求められ、その根幹には本来磨くべき教師としての本質があると言える。

\*「ことば」とは、音声言語に加え、非音声言語、音声言語以外の補助代替手段（ACC）も含まれる。

### ○ことばの役割○

生活の中で重要な役割があり、  
主に**自分の要求の伝達**や**他者との意思の疎通**、**指示や授業の理解**などがある。

### ○ことばの重要性○

ことば（言語）はコミュニケーションの手段としての役割だけでなく、**ヒトは物事をことばで考えている（思考）。また、見たい聞きたいした事柄（経験）をことばで覚えたい思い出したいしている（記憶）。さらに、ふるまい（行動）をことばで操っている。**もし、ことばの発達に問題があると、コミュニケーションが難しいだけでなく、生活場面の活動や学業の習得に影響が出ることがある。

### ○ことばとコミュニケーション○

コミュニケーションはことばによる言語的コミュニケーションとことばによらない非言語的コミュニケーションに分けられる。

**ことばによるコミュニケーション**：音声言語、視覚言語（文字、手話等）、触覚言語（点字）があり、ことばを介することで、意思や考えを広範囲にまた詳細に相互に伝達できる。

**ことばによらないコミュニケーション**：視線、表情、身振り、指さしなどがあり、伝達できる内容は簡単な欲求や要求（ほしいものややりたいこと）、また喜怒哀楽といった単純な情動（気持ち）に限られる。

### ○ことばと記憶・思考・行動○

日常生活で経験する学習内容は、ほとんどことばを介して記憶している。たいていは、音声化されないことば（内言語）によって処理して記憶する。コミュニケーションは音声化されたことば（外言語）で実現されている。ことばで処理して記憶した事柄は、目的に応じて思い出することができる。また、思考にも深く関連している。見聞したことを区別できるのは、事柄に対してことばで名前を付けており、複数の名付けられたものの共通項を見つけ分類するからである。ことばで区別され、関係付けられているものは、ことばで操作できる。つまり、思考できることになる。人は、目の前のものだけをみて考えるのではなく、これまでの蓄積された知識と関連付け、さらに先を見越して考える。つまり、思考は現在過去、未来を関係付けて成り立っている。また、ことばは行動にも重要な役割を果たしている。日常生活で習慣になった行動は、あまりことばは用いない。新しく実行しなければならない行動や複雑な行動はことばの力が必要になる。ことばで行動の目標や計画を立てて、またはより効率的なやり方を考えて実行している。

\*このように、ことばはコミュニケーション手段だけではありません。

日々の学校生活においてもことばの指導の意義を捉えて実施したいものですね。



参考：『ことばの指導 コミュニケーション能力の向上を目指して』全国特別支援学校知的障害教育校長会・編・著

## キャリア発達を促すための

### ③ 「合理的配慮」って何？

キャリア教育は、一人一人のキャリア発達を促す教育である。教員は、学校教育目標の達成と児童生徒一人一人の育てたい姿の実現に向けて、教育課程の枠の中で教育実践している。これまでも教育課程の枠の中で、一人一人の実態に応じて指導目標、指導内容の配列や時数、学習グループなどを設定し、教育実践にあたってきました。そして、一人一人に応じた配慮や手立てを講じながら行ってきましたが、平成28年4月より障害者差別解消法の施行に伴い、一人一人に応じた学びやすい環境や学びを充実させる配慮と言える「合理的配慮」の提供が義務となります。「合理的配慮」に関しては、個別の支援計画に明記することが望ましいとされており、保護者との合意形成の上で実施していくことが大切です。一人一人の学びを充実させ、効果的にキャリア発達を促していくためにも、合理的配慮についての基本的事柄を理解しておきましょう。

#### 障害者権利条約

← あらゆる障害者（身体障害、知的障害および精神障害等）の尊厳と権利を保障するための条約

← 2013年12月4日参議院本会議  
障害者基本法や障害者差別解消法の成立

日本国の**批准** → 2014年1月20日付けで国際連合事務局に**承認**

#### 障害者権利条約

- 「第二十四条 教育」においては、教育についての障害者の権利を認め、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容する教育制度（inclusive education system）等を確保することとし、その権利の実現に当たり確保するものの一つとして、「個人に必要とされる**合理的配慮**が提供されること。」を位置付けている。
- 「第二条 定義」においては、「**合理的配慮**」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と定義されている。

#### 代表的な合理的配慮の例

##### ◆知的障害◆

- ・ゆっくりと短いことばで話す。
- ・見本や実物を提示して説明する。
- ・文章を書くときは、見本や項目を提示する。
- ・漢字には、ルビを振る。
- ・視覚的に分かりやすい教材を使う。
- ・話し合いや思考の際には、テーマや項目を絞る。

##### ◆発達障害◆

- ・物や絵を見せながら、短い言葉や文章で話す。
- ・疲労や緊張などに配慮し、別室や休憩スペースを設ける。
- ・吃音等ある場合には、話す時間を確保する。
- ・感覚過敏がある場合には、教室内の音、温度、光等を調整する。

##### ◆肢体不自由◆

- ・段差のあるところは補助する。
- ・板書や掲示物を見えやすい高さにする。
- ・作業台や机等は、作業しやすい高さにする。
- ・自筆が困難なときは、本人の意思確認をして代筆する。
- ・活動することができる環境を工夫する（車いす）。

##### ◆難病等◆

- ・定期的な内服や排泄、医ケア等に配慮する。
- ・体調や疲労等に配慮し、活動や休憩場所に工夫する。
- ・他の児童生徒と同じように運動できない場合にも、病気等の特性を理解し、過度に排除することなく、参加するための工夫をする。

\*詳細は、「合理的配慮等具体例データ集」：内閣府  
「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」特総研 を参照ください。

★保護者への情報提供という意味からも学校外での配慮についても、目を通しておきたいですね。

# ◆基礎的環境整備と合理的配慮の関係◆

## 基礎的環境整備と合理的配慮配慮（中教審初中分科会報告より）

### 「合理的配慮」と「基礎的環境整備」

障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。これらの環境整備は、その整備の状況により異なるところではあるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子供に対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する。

### 基礎的環境整備

- ①ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- ②専門性のある指導体制の確保
- ③個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- ④教材の確保
- ⑤施設・設備の整備
- ⑥専門性のある教員、支援員等の人的配置
- ⑦個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- ⑧交流及び共同学習の推進

### 学校における合理的配慮の観点

#### ①教育内容・方法

- ①-1 教育内容
  - ①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
  - ①-1-2 学習内容の変更・調整
- ①-2 教育方法
  - ①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
  - ①-2-2 学習機会や体験の確保
  - ①-2-3 心理面・健康面の配慮

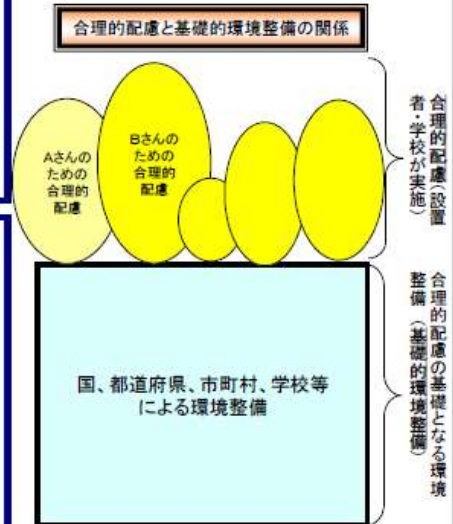
#### ②支援体制

- ②-1 専門性のある指導体制の整備
- ②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
- ②-3 災害時等の支援体制の整備

#### ③施設・設備

- ③-1 校内環境のバリアフリー化
- ③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
- ③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

### 3観点11項目



引用：「インクルーシブ教育システム構築に向けた基礎的環境整備と合理的配慮の課題」  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 藤本氏 資料より

前項に障害者権利条約の中に位置付けられている合理的配慮について、そして、合理的配慮の代表的な例を挙げました。

合理的配慮を実施する上では、合理的配慮の基礎となる**基礎的環境整備**についても理解しておければと思います。

「合理的配慮」とは、障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者や学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるものであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものです。

「基礎的環境整備」とは、この「合理的配慮」の基礎となるものであって、障害のある子供に対する支援について、法令に基づき又は財政措置等により、例えば、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、それぞれ行う教育環境の整備のことです。

また、「合理的配慮」は、「基礎的環境整備」を基に個別に決定されるものであり、それぞれの学校における「基礎的環境整備」の状況により、提供される「合理的配慮」も異なることとなります。

なお、「基礎的環境整備」についても、「合理的配慮」と同様に体制面、財政面を勘案し、均衡を失した又は過度の負担を課すものではないことに留意する必要があります。

加えて、学校における合理的配慮の観点（3観点11項目）についても知っておきましょう。

授業づくり振り返りシート

学級等		指導者名	
-----	--	------	--

評価基準：4（よい）－3（概ねよい）－2（やや不十分）－1（不十分）

	評価内容	評価
	(1)本校の教育目標や教育の目指す方向性を理解し、指導・支援に当たっている。	4-3-2-1
授業構想	(1)児童生徒の興味・関心、認知特性、社会性スキル、学習経験等を多面的に把握している。	4-3-2-1
	(2)学校教育目標等や児童生徒（保護者）・教師の願いや思いを踏まえ、単元（題材）で育みたい力と目指したい児童生徒の姿を具体化している。	4-3-2-1
単元構想	(1)児童生徒にとって、分かりやすい流れやゴール（クライマックス）を明確にしている。	4-3-2-1
	(2)他の単元や指導の形態との関連を明確にしている。	4-3-2-1
支援方法	(1)空間の構造化（動線、配置、掲示物等）に配慮している。	4-3-2-1
	(2)時間の構造化（開始・終了の時間、活動の順番が見える）に配慮している。	4-3-2-1
	(3)活動の構造化（単元計画や学習の流れが見える）に配慮している。	4-3-2-1
	(4)方法の構造化（活動の手順等）に配慮している。	4-3-2-1
基本姿勢	(1)学習ルールが徹底されている。	4-3-2-1
	(2)児童生徒に伝わりやすい話し方をしている。	4-3-2-1
学習活動	(1)学習のめあてが提示されている（児童生徒が学習のめあてを理解している）。	4-3-2-1
	(2)導入の工夫がされている（短時間で必要な情報が伝えられている等）。	4-3-2-1
	(3)児童生徒のめあてや教師のねらいを達成するための学習が展開されている。	4-3-2-1
	(4)児童生徒同士のやりとりの場が設定されている。	4-3-2-1
	(5)まとめの時間が確保されており、児童生徒が本時の学びを実感できる工夫がある。	4-3-2-1
	(6)T1だけが学習を進めることがないように、役割分担が明確で効果的に機能している。	4-3-2-1
成果	(1)単元の中で、児童生徒の変容を見取ることができた。	4-3-2-1
自由記述	【今月の授業づくりを振り返って】	



# ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成

## 学校教育目標

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、  
自立と社会参加を目指して努力する児童生徒を育成する

## 教育課程編成の重点事項

- 児童生徒一人一人の教育的ニーズや障害の多様化に応じた指導内容・方法の設定
- 社会的自立に向けて主体的に活動する姿を引き出す連続性のある指導内容の構築
- 育てたい力の具現化に向けた体験的、実際の活動の設定

### 小学部

### 中学部

### 高等部

#### ○発達段階と生活年齢、児童生徒の教育的ニーズ、障害の多様化に対応する具体的な取り組み

・ICT機器の効果的な活用

- ・効果的な指導のための学習グループの編成
- ・個別の指導計画に基づいたねらいを明確にした自立活動の指導

- ・個別の指導計画の目標を踏まえた学習グループの編成
- ・多くの教師等が関わって設定する自立活動の指導計画の作成

- ・学年・学習グループに応じた各教科等の時数の配当
- ・個別の指導計画に基づいた計画的な自立活動の実施

#### ○目指す将来像の明確にした具体的な取り組み

・「横手のつけたい力」スタンダードの活用  
・「キャリアノート」の活用と改善

- ・小学部からの進路指導の取組として段階をおさえた日常生活の指導の充実

- ・3年間を見通した進路指導の内容の明確化
- ・高等部の作業学習の見学、体験、共同学習の実施

- ・生徒の実態に応じた職業科の内容の設定
- ・卒業後の生活の基盤となる家庭科の実施

#### ○将来の生活に必要な基礎的・基本的な力を育成するための具体的な取り組み

・教育効果の高い地域資源の選定と活用

- ・生活単元学習において積み重ねのある生活上のテーマの設定した指導計画
- ・生活に結びついた教科指導等の充実

- ・生活単元学習において、各学年の実態に応じた積み重ねのある単元計画の立案
- ・他の指導形態との関連を考えた教科指導等の内容の精選

- ・生活単元学習と総合的な学習の時間における計画的なまとめ取りの実施
- ・学校卒業後の生活に直結する教科指導等の実施

## あ と が き

本校は、平成27年度と平成28年度の2年間、文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究事業 特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究に取り組みました。研究テーマを「ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成～地域資源を活用した授業づくりを通して～」とし、授業改善と教育課程の改善を行い、成果をまとめることができました。これまで2年間取り組んできた研究を、さらに推進するための今後の取組について、3点について述べたいと思います。

1点目は、個別の支援計画や個別の指導計画についてです。本研究では、児童生徒一人一人のライフキャリアに着目して研究を進めました。ライフキャリアの視点による授業づくりでは、一定の成果を得ることができました。今後より充実した授業づくりをするためにも、児童生徒一人一人の社会的自立に向け、ライフキャリアの視点を個別の支援計画や個別の指導計画に具体的に反映させていく必要があります。次年度に向けて個別の支援計画や個別の指導計画の様式の改善に着手しているところです。

2点目は、家庭・地域との連携についてです。ライフキャリアの視点として取り組んだ「役割を果たす」ことが、学習内容が学校での「役割を果たす」ことに限定されることがみられました。小学部・中学部段階から家庭生活や地域生活を意識した学習内容（進路指導）を段階的に展開することが大切と考えています。そのためには、家庭・地域との連携を早期から段階的・継続的に実施するようにしたいと思います。そこで、次年度は、小学部では主に生活科（生活習慣）の指導内容を押さえた日常生活の指導、中学部では職業・家庭科、高等部では家庭科を実施し、よりねらいを絞った指導を図りたいと思います。

3点目は、教育計画についてです。生活単元学習や職業科を進めるにあたっては、他の教科等と関連性のある指導計画の作成を行い、授業づくりに取り組んできました。単元において効果的に児童生徒の変容を促すためには、実施時期の調整が不可欠であり、学習や学校及び学部行事も関連しています。そこで、次年度の教育課程編成に向け、教育計画の精選と調整を行っているところです。

このような取組を通して、次年度も地域に開かれた教育課程を編成し、ライフキャリアの視点に沿った教育活動を推進していきたいと考えています。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり秋田県教育庁特別支援教育課指導主事の皆様、また、秋田県立大曲支援学校、秋田県立稲川支援学校の皆様に御指導、御助言をいただき誠にありがとうございました。併せて、本紀要を御高覧いただきました皆様より忌憚のない御意見・御指導をいただきますようお願い申し上げます。

教 頭 板 井 互



## 研究に携わった職員（平成28年度）

校長 佐々木 明 美      教頭 板 井 互      教頭 阿 部 洋 一  
事務長 日 野 勉      教育専門監 佐々木 義 範

### （小学部）

永 澤 淳 子  
雲 雀 登喜子  
高 橋 知希子  
照 井 聖 子  
赤 川 由 美  
大 川 浩 平  
森 愛 子  
岩 井 小百合  
佐 藤 真紀子  
佐々木 貴 子  
佐 藤 剛 大  
田 口 侑以子  
佐 藤 撰  
佐 藤 真一郎  
小 形 美穂子  
菅 原 美奈子

### （中学部）

中 野 由利子  
高 井 俊 博  
小 椋 トモ子  
佐 藤 恵  
田 中 美津子  
大 庭 せい子  
柿 崎 り か  
藤 田 亜貴子  
鈴 木 崇  
小 西 和 晴  
鈴 木 朋 子  
阿 部 潤 子  
菅 優 子  
今 野 文 龍  
小 野 敬 子  
阿 部 隆 文  
大 西 幸  
高 橋 牧 子  
小 野 利津子  
赤 穂 徹

### （高等部）

時 田 航  
高 橋 和 恵  
井 上 裕 子  
佐 貫 亜希子  
能登谷 明 子  
山 田 育 宏  
大 川 康 博  
小 玉 智 彦  
佐 藤 深 雪  
渡 邊 藤 子  
遠 山 成 子  
近 亜希子  
後 松 慎太郎（研究主任）  
金 澤 めぐみ  
青 木 真知子  
杳 澤 妙 子  
鈴 木 顕  
櫻 田 菜 保  
藤 澤 真由子  
高 橋 誠  
洪 谷 康 之  
浅 利 政 子  
中 川 浩 孝  
古 関 綾 子  
伊 藤 文 子  
鈴 木 匠 子  
守 屋 充 敬  
赤 坂 千 春  
室 井 真 美  
松 岡 一  
谷 藤 イツ子

発行年月日 平成29年3月17日  
発行所 秋田県立横手支援学校  
〒013-0064 横手市赤坂字仁坂105-1  
TEL 0182-33-4166 FAX 0182-33-4266（小・中学部）  
TEL 0182-33-4167 FAX 0182-33-4277（高等部）  
Email: [yokote-s@akita-pref.ed.jp](mailto:yokote-s@akita-pref.ed.jp)  
<http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp>